

yame

八女市内遺跡群 8

福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第112集

2016

八女市教育委員会

yame

八女市内遺跡群 8

福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第112集

2016

八女市教育委員会

序

八女市の西側に位置する新庄・国武地区においては、以前より多くの遺跡の存在が知られており、土器や石器などが多数採取されています。現在においても遺跡や遺物が多数地下に眠っているものと思われ、これらの保存と周知は八女市が取り組まなければならない重要な課題となっています。

当該地区においては、昭和50年代後半から始まった八女南部地区県営ほ場整備事業を発端とし、これまであまり知られていなかった古代の集落や墳墓が多数発見されており、当該地区の歴史の奥深さを認識するに足る成果が見いだされています。

今回の報告は、平成元年から平成2年に行われた発掘調査について、未報告となっていたものを含め再検討を行いながら、より精度の高い情報を公表することで1700年程前の先人の暮らしを知っていただくとともに、今現在においても地下に埋蔵されている遺跡に対し、文化財愛護の思いを持っていただくことを目的としております。

この報告書が、今回公表させていただきました遺跡のみならず、市内に数多く点在する文化財を深く理解する一助となり、今まで以上の郷土愛の心を育むことに寄与できるのであれば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解をいただきました関係各位、及び地元の皆様方には並々ならぬご協力と応援をいただきました。深くお礼を申し上げますとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成28年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西 島 民 生

例 言

1. 本書は、八女市原ノ前遺跡・松本遺跡における発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査で検出した遺構の名称・番号については昭和元年～平成2年の調査時に準じて付している。
4. 本書に使用した現地写真は、発掘調査時のものである。
5. 本書使用の方位については、すべて磁北を基準としている。
6. 本書の執筆、及び編集については主として原ノ前遺跡については永田が、松本遺跡については中川が行った。
7. 本書に関する調査記録、及び出土遺物は現八女市において保管・収蔵している。

本文目次

1 調査の経緯	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査体制	1
2 遺跡の立地と環境	3
3 調査の内容	4
原ノ前遺跡	4
(1) 発掘調査の概要	4
(2) 遺構と遺物	4
(3) 総括	16
松本遺跡	17
(1) 発掘調査の概要	17
(2) 遺構と遺物	19
(3) 総括	29

挿図目次

第 1図	周辺遺跡分布図[1/25, 000]	2
第 2図	原ノ前遺跡 遺跡位置図[1/2, 500]	3
第 3図	原ノ前遺跡 遺構配置図[1/200]	4
第 4図	原ノ前遺跡 1, 2, 3号竪穴住居(SB-01, 02, 03)実測図[1/80]	5
第 5図	原ノ前遺跡 1号竪穴住居(SB-01)出土遺物実測図[1/4]	5
第 6図	原ノ前遺跡 2号竪穴住居(SB-02)出土遺物実測図[1/4]	6
第 7図	原ノ前遺跡 2号竪穴住居(SB-02)出土遺物実測図[1/2]	6
第 8図	原ノ前遺跡 4号竪穴住居(SB-04)実測図[1/40]	7
第 9図	原ノ前遺跡 4号竪穴住居(SB-04)出土遺物実測図[1/4]	8
第10図	原ノ前遺跡 5, 6, 7号竪穴住居(SB-05, 06, 07) 及び1号不明遺構(SX-01)実測図[1/80]	8
第11図	原ノ前遺跡 5号竪穴住居(SB-05)出土遺物実測図[1/4]	9
第12図	原ノ前遺跡 6号竪穴住居(SB-06)出土遺物実測図[1/4]	9
第13図	原ノ前遺跡 6号竪穴住居(SB-06)出土遺物実測図[1/1]	10
第14図	原ノ前遺跡 7号竪穴住居(SB-07)出土遺物実測図[1/4]	10
第15図	原ノ前遺跡 8号竪穴住居(SB-08)実測図[1/40]	10
第16図	原ノ前遺跡 9号竪穴住居(SB-09)実測図[1/80]	11
第17図	原ノ前遺跡 9号竪穴住居(SB-09)出土遺物実測図[1/4]	12
第18図	原ノ前遺跡 1号土坑(SK-01)実測図[1/40]	13
第19図	原ノ前遺跡 1号土坑(SK-01)出土遺物実測図[1/4]	13
第20図	原ノ前遺跡 2号土坑(SK-02)実測図[1/40]	13
第21図	原ノ前遺跡 3号土坑(SK-03)実測図[1/40]	13
第22図	原ノ前遺跡 4号土坑(SK-04)実測図[1/40]	13
第23図	原ノ前遺跡 1号溝状遺構(SD-01)実測図[1/40]	13
第24図	原ノ前遺跡 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図[1/4]	14
第25図	原ノ前遺跡 1号不明遺構(SX-01)実測図[1/40]	14
第26図	原ノ前遺跡 2号不明遺構(SX-02)実測図[1/80]	14
第27図	原ノ前遺跡 2号不明遺構(SX-02)出土遺物実測図[1/4]	15
第28図	松本遺跡位置図[1/5, 000]	17
第29図	松本遺跡遺構配置図[1/150]	18
第30図	松本遺跡 1, 2号竪穴住居(SB01・02)実測図[1/80]	21
第31図	松本遺跡 3号竪穴住居(SB03)実測図[1/80]	21
第32図	松本遺跡 4号竪穴住居(SB04)実測図[1/80]	22
第33図	松本遺跡 5号掘立柱建物(SB05)実測図[1/80]	22

第34図	松本遺跡	6号掘立柱建物(SB06)実測図[1/80]	22
第35図	松本遺跡	7号掘立柱建物(SB07)実測図[1/80]	22
第36図	松本遺跡	8号掘立柱建物(SB08)実測図[1/80]	23
第37図	松本遺跡	9号掘立柱建物(SB09)実測図[1/80]	23
第38図	松本遺跡	10号掘立柱建物(SB10)実測図[1/80]	23
第39図	松本遺跡	11号掘立柱建物(SB11)実測図[1/80]	23
第40図	松本遺跡	12号掘立柱建物(SB12)実測図[1/80]	23
第41図	松本遺跡	13号掘立柱建物(SB13)実測図[1/80]	25
第42図	松本遺跡	14号掘立柱建物(SB14)実測図[1/80]	25
第43図	松本遺跡	15号掘立柱建物(SB15)実測図[1/80]	25
第44図	松本遺跡	16号掘立柱建物(SB16)実測図[1/80]	25
第45図	松本遺跡	17号掘立柱建物(SB17)実測図[1/80]	25
第46図	松本遺跡	1号不明遺構(SX01)実測図・土層断面図[1/80]	26
第47図	松本遺跡	1号溝状遺構(SD01)土層断面図[1/80]	26
第48図	松本遺跡	1～4号竪穴住居(SB01～04)・11号掘立柱建物(SB11)出土土器実測図[1/4]	27
第49図	松本遺跡	13, 14号掘立柱建物(SB13, 14)・1号不明遺構(SX01)・ピット出土土器実測図[1/4]	28
第50図	松本遺跡	3, 4号竪穴住居(SB03, 04)出土石製品実測図[1/3]	28
第51図	松本遺跡	4号竪穴住居(SB04)出土石製品実測図[1/4]	29

表目次

表1	原ノ前遺跡	出土遺物観察表	30
表2	松本遺跡	SB・SX・ピット出土土器観察表	33
表3	松本遺跡	SB出土石製品観察表	33

図版目次

図版1	原ノ前遺跡	全景	35
図版2	(1・2)原ノ前遺跡	調査前	36
	(3)原ノ前遺跡	1・2・3号竪穴住居(南から)	36
図版3	(1)4号竪穴住居(西から)		37
	(2)5・6・7号竪穴住居(南から)		37
	(3)5号竪穴住居遺物出土状況		37
図版4	(1)5号竪穴住居遺物出土状況		38
	(2)5号竪穴住居(北から)		38
	(3)7号竪穴住居(南から)		38

図版5	(1)8号竪穴住居(南から)	39
	(2)9号竪穴住居(南東から)	39
	(3)9号竪穴住居ベッド状遺構	39
図版6	(1)1号溝状遺構(西から)	40
	(2)1号不明遺構	40
	(3)2号不明遺構(北から)	40
図版7～10	遺物写真	41
図版11	(1)松本遺跡 全景	45
	(2)松本遺跡 1,2号竪穴住居	45
	(3)松本遺跡 3号竪穴住居,1号不明遺構	45
	(4)松本遺跡 4号竪穴住居	45
図版12	(1)松本遺跡 5号掘立柱建物	46
	(2)松本遺跡 6号掘立柱建物	46
	(3)松本遺跡 7号掘立柱建物	46
	(4)松本遺跡 8号(手前),16号掘立柱建物	46
図版13	(1)松本遺跡 9,10号掘立柱建物	47
	(2)松本遺跡 10～12号掘立柱建物(南東より)	47
	(3)松本遺跡 10,11号掘立柱建物	47
	(4)松本遺跡 15号掘立柱建物	47
図版14	(1)松本遺跡 17号掘立柱建物	48
	(2)松本遺跡 1号溝状遺構(南西より)	48
	(3)松本遺跡 1号不明遺構	48
	(4)松本遺跡 1号不明遺構 遺物出土状況	48
図版15	(1)松本遺跡 1号溝状遺構 土層	49
	(2)松本遺跡 1号不明遺構 土層A-A'	49
	(3)松本遺跡 1号不明遺構 土層B-B'	49
	(4)松本遺跡 1号不明遺構 土層C-C'	49
図版16～19	遺物写真	50

1 調査の経過

(1) 調査に至る経緯

平成 57 年度を初年度として行われた八女市南部地区県営圃場整備事業では、農地約 209ha を対象に、毎年 20ha 程度の圃場整備事業が実施された。平成元年度には国武、緒玉地区が事業地となり、事業地内の一部で埋蔵文化財の包蔵が推測され、これを受けて八女市教育委員会と八女市南部土地改良区で協議が行われ、八女市教育委員会による事前調査により、遺跡の範囲が広大に及ぶことが判明した。そこで、圃場整備により削平を免れる箇所については遺跡保護の観点から現状保存とし、削平される約 20,000 m²を対象に遺跡の記録保存を目的に大坪・中里・篠原・松本遺跡（国武）、袴田（緒玉）の発掘調査が行われた。続けて平成 3 年度に実施された八女市南部第 2 地区県営圃場整備事業は矢部川によって形成された沖積平野の右岸地区が中心となる多くの地区が対象範囲となり、原ノ前遺跡（新庄）、京田・二反田・宮の前遺跡（酒井田）、宿町・野田・水洗遺跡（緒玉）などの調査が行われた。なお、発掘調査については国庫補助事業として実施されている。



(2) 調査体制

【平成元年度】（松本遺跡発掘調査時）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長 坂田 不二夫

社会教育課 課長 平島 敏章

課長補佐 山下 節夫

社会教育係 係長 大月 重信

係員 梅野 満 平田 高義 平島 芳子

赤崎 敏男（調査担当）

【平成 2 年度】（原ノ前遺跡発掘調査時）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長 坂田 不二夫



- | | | | | |
|--------------|----------|--------------|-------------|-----------|
| 1. 松本遺跡 | 6. 京田遺跡 | 11. 中里遺跡 | 16. 川犬古墳群 | 21. アモメ遺跡 |
| 2. 原ノ前遺跡 | 7. 袴田遺跡 | 12. 立野・大坪遺跡 | 17. 西山ノ上遺跡 | 22. 岩戸山古墳 |
| 3. 上島町・日津町遺跡 | 8. 野田遺跡 | 13. 樋の口遺跡 | 18. 亀の甲遺跡 | 23. 乗場古墳 |
| 4. 大坪・前田遺跡 | 9. 二反田遺跡 | 14. 川原遺跡 | 19. 鍛冶屋遺跡 | |
| 5. 深田遺跡 | 10. 宿町遺跡 | 15. 新庄・六反田遺跡 | 20. 茶ノ木ノ本遺跡 | |

第1図 周辺遺跡分布図〔1/25,000〕

社会教育課 課 長 小野 勝輝
 課 長 補 佐 大月 重信
 社会教育係 係長 下川 文比古
 係員 梅野 満 井手 勇一 平島 芳子
 赤崎 敏男（調査担当）

【平成27年度】（報告書作成時）

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

文化課 課 長 井上 秀樹

課 長 補 佐 月足 稔

文化財保護係 係長 中川 寿賀子

係員 永田 寧 檀 佳克 渡部 真弓

2 遺跡の立地と環境

八女市は平成18年に八女郡に所在していた上陽町、平成22年2月に立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目の、東を大分県、南を熊本県と接する広



第2図 原ノ前遺跡 遺跡位置図〔1/2,500〕

大な自治体となった。多様な生産活動が見られ、東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数みられる。また、中山間部においては茶や、巨峰などの生産が行われている。平野部では苺や梨、電照菊などが生産されている。

これらの生産活動を可能にしている立地は、大分県との境にそびえる釈迦岳を源とし、有明海に向け西流する一級河川の矢部川が形成したものである。矢部川は以前、水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

3 調査の内容

原ノ前遺跡

(1) 発掘調査の概要

報告者が発掘調査者と異なるため、以下では、発掘調査者により作成された調査時の記録をもとに遺跡の概要を記す。なお、原ノ前遺跡については発掘調査概報についても掲載されていない。

原ノ前遺跡は、旧八女市西南部の八女市新庄にある下新庄集落のある微高地の南側、標高20m程度の地点に所在している。原ノ前遺跡における発掘調査は、平成2年4月11日から平成2年5月29日にかけて実施された。調査対象となった面積は約500m²で、成果として弥生時代後期の集落跡が発見され、この時代における人々の生活を知る資料が見つかった。竪穴住居の他、南側において方形の溝状遺構に囲まれた空間を発見した。

(2) 遺構と遺物

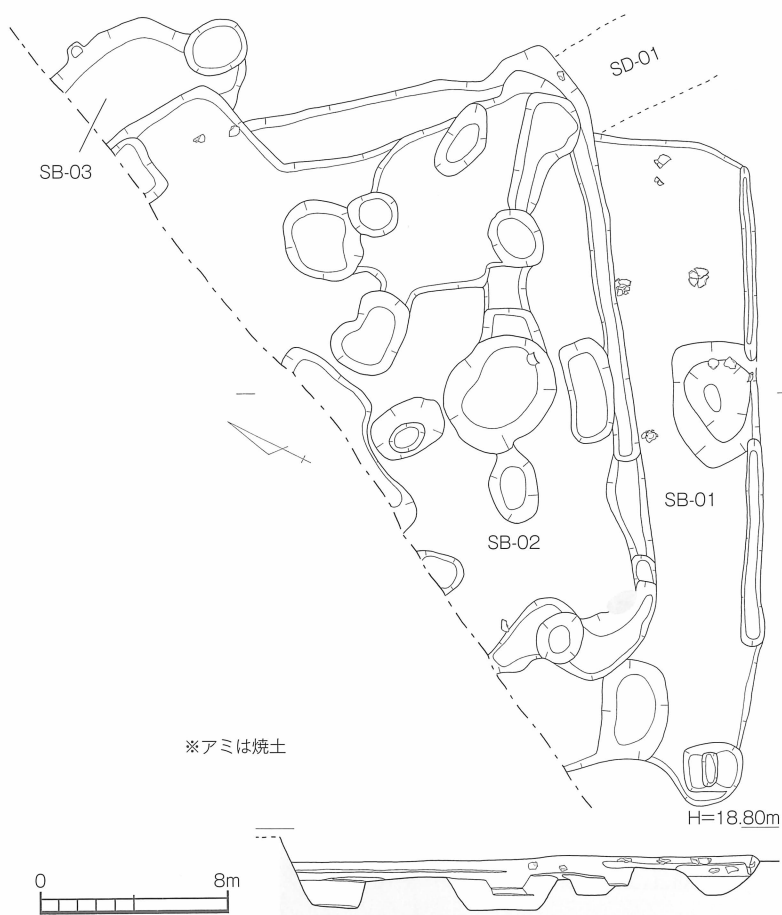
1・2・3号竪穴住居（第4図 図版2-3）

西側の調査区境界中央南よりで検出された竪穴住居で、1号竪穴住居は2号竪穴住居に切られ、南東壁中央に屋内



第3図

原ノ前遺跡 遺構配置図〔1/200〕

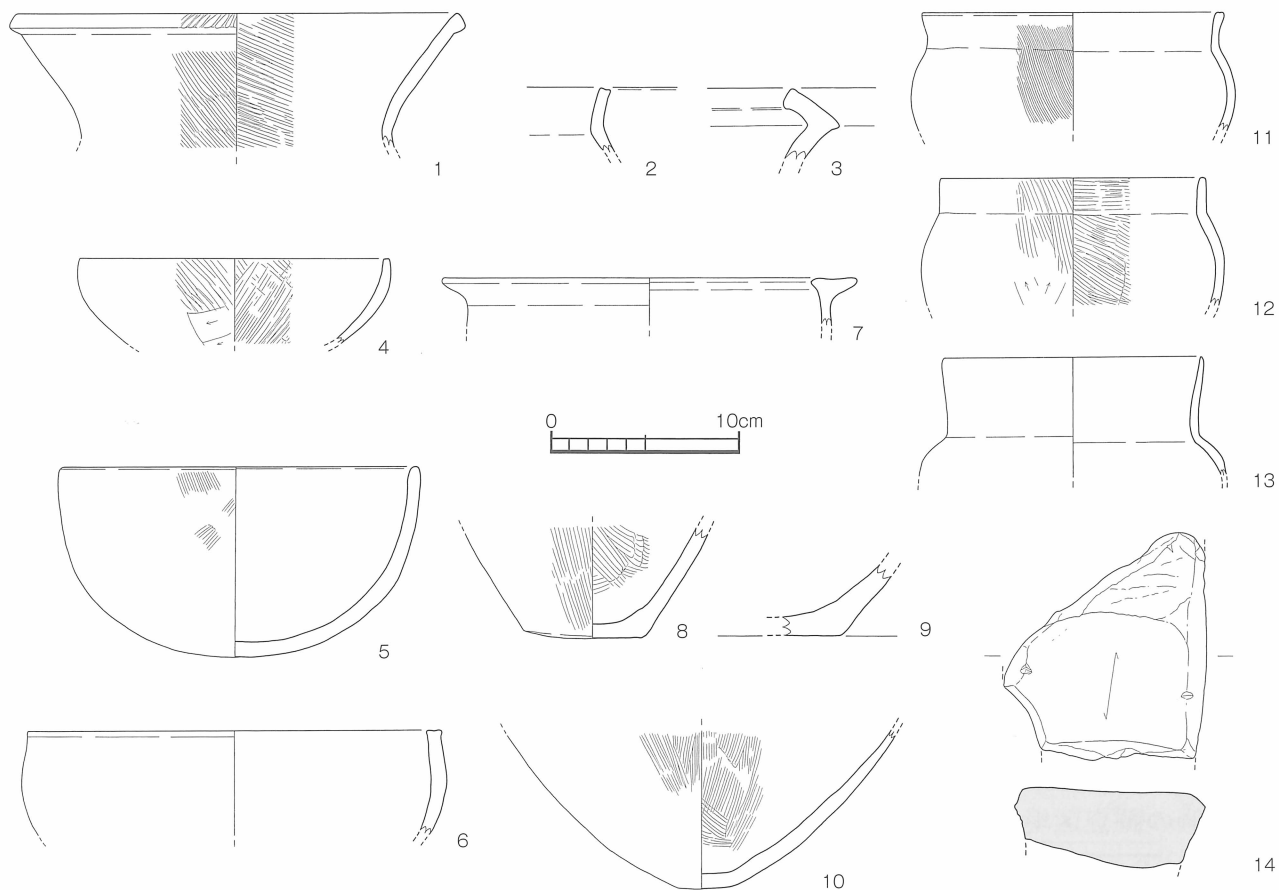


第4図 原ノ前遺跡 1, 2, 3号竪穴住居 (SB-01, 02, 03)
実測図 [1/80]

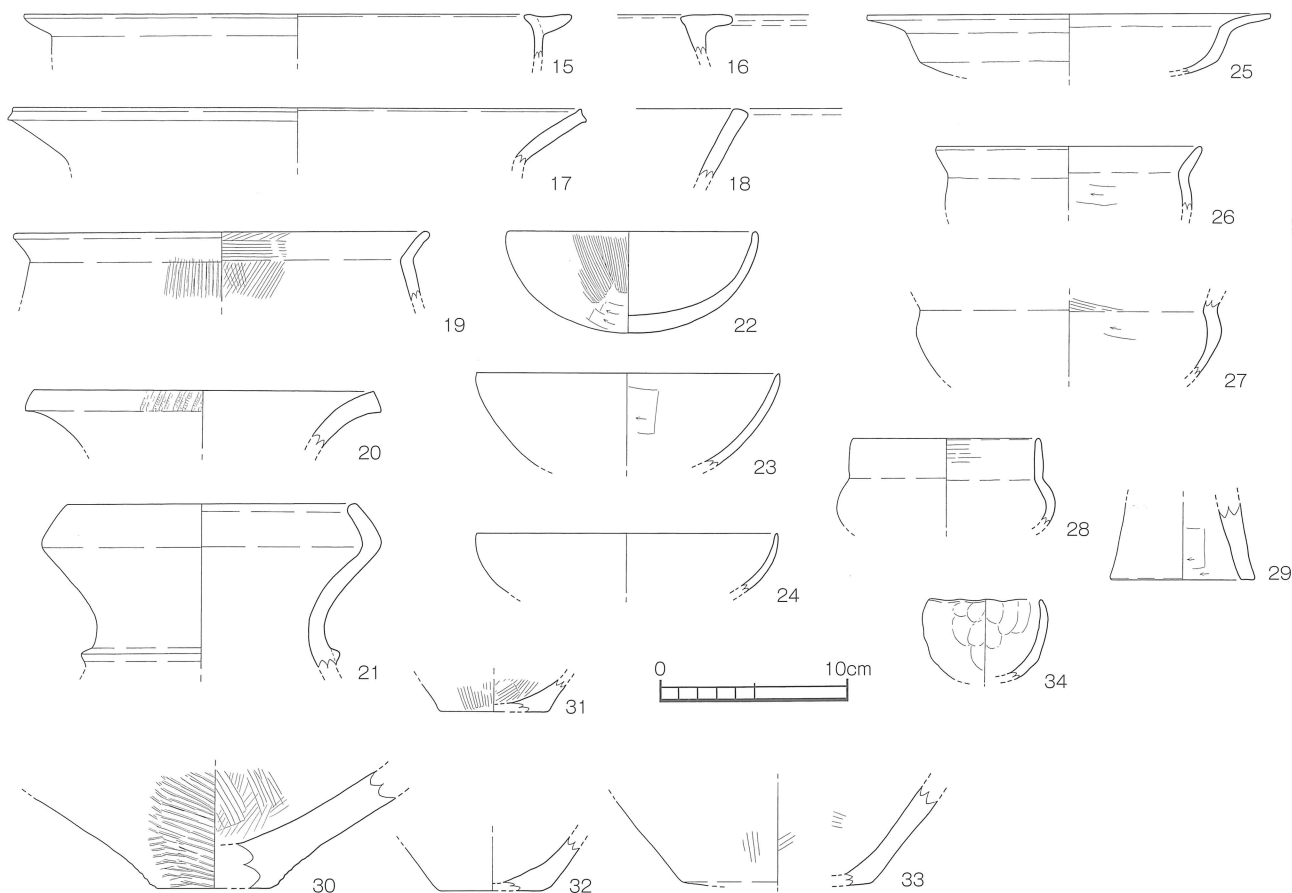
土坑を設ける。北東—南西幅で約6.45m。2号竪穴住居は、東側コーナーで1号溝状遺構を切っており、1号竪穴住居と同様南東壁中央に屋内土坑を設ける。長軸長6.2m。調査時に3号竪穴住居として検出された遺構は、2号竪穴住居との切り合い関係は不明で、出土遺物は無い。

1号竪穴住居出土遺物 (第5図)

1～3は壺、4～6は素口縁の鉢。7～9は甕で8はレンズ状、9は平底の底部。10は不安定なレンズ状の底部。11～13は口縁部が直線的に上方へ伸びる直口壺で、口縁部はほとんど開かない。14は石英斑岩製の砥石。



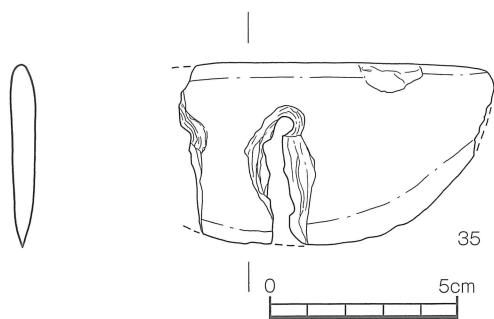
第5図 原ノ前遺跡 1号竪穴住居 (SB-01) 出土遺物実測図 [1/4]



第6図 原ノ前遺跡 2号竪穴住居 (SB-02) 出土遺物実測図 [1/4]

2号竪穴住居出土遺物 (第6図)

15～19は甕。20・21は壺で、20は口唇部にキザミがつく。21は複合口縁の壺。22～24は素口縁の鉢で22は底部にケズリを施す。25は高坏の坏部。26, 27は口縁部が外反気味に開く鉢。28は直口壺で口縁部が上方に直線的に延びる。29は器台か。30～33は底部で30～32は平底、33はレンズ状を呈する。34は手づくねによるミニチュア土器。



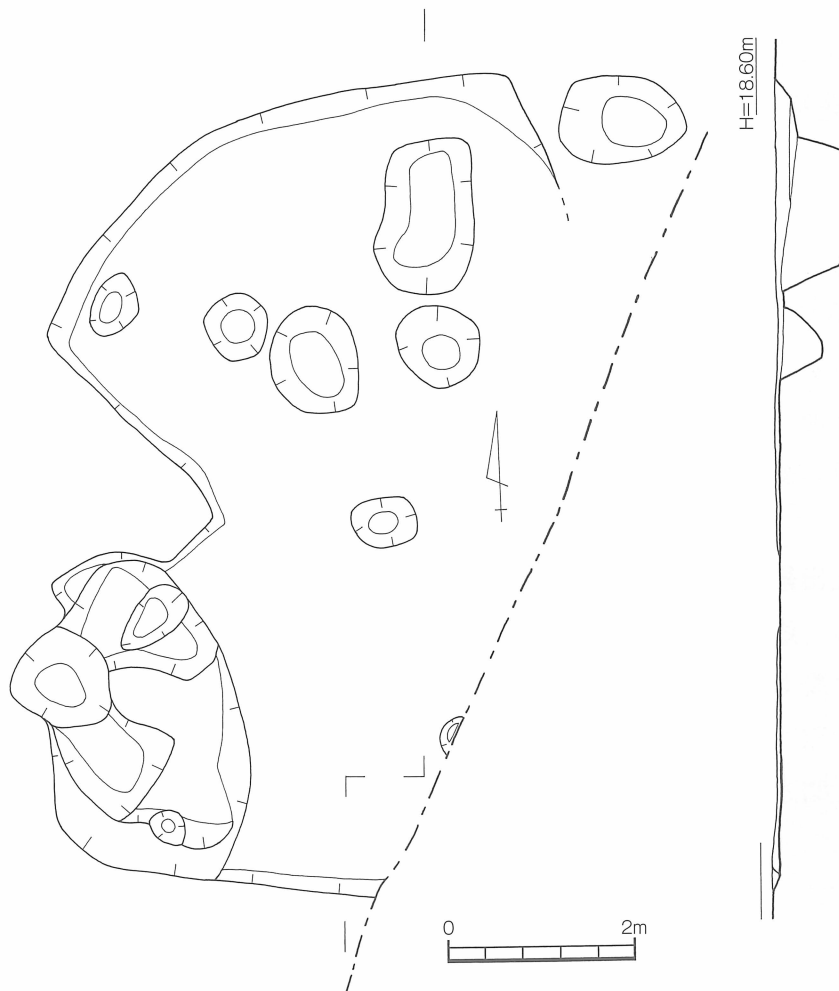
第7図 原ノ前遺跡 2号竪穴住居 (SB-02) 出土遺物実測図 [1/2]

2号竪穴住居出土石製品 (第7図)

35は2号竪穴住居から出土した石包丁片で、一方の穿孔箇所より外側を欠く。残存する穿孔は刃側に向かって穿孔部を拡張する2次加工がなされている。

4号竪穴住居 (第8図 図版3-1)

1～3号竪穴住居の東側で検出された竪穴住居で、1号土坑に切られる。不定形で柱穴も確認できなかった。南北長4m25、東西長は東側が調査区外となっているため不明である。



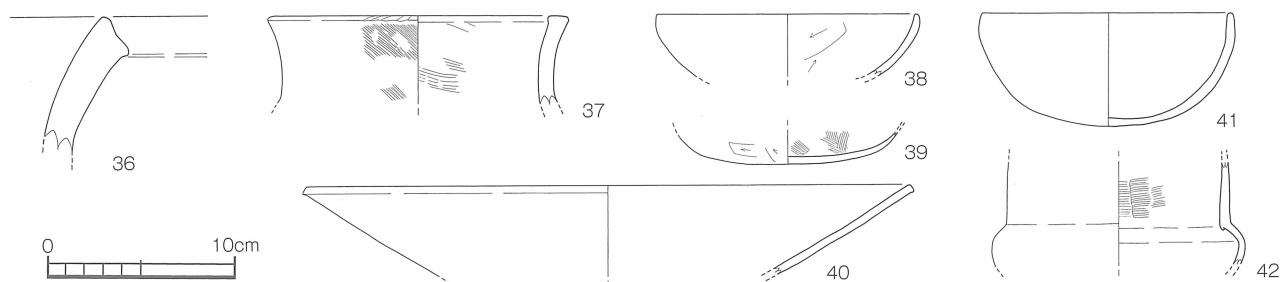
第8図 原ノ前遺跡 4号竪穴住居 (SB-04) 実測図 [1/40]

4号竪穴住居出土遺物 (第9図)

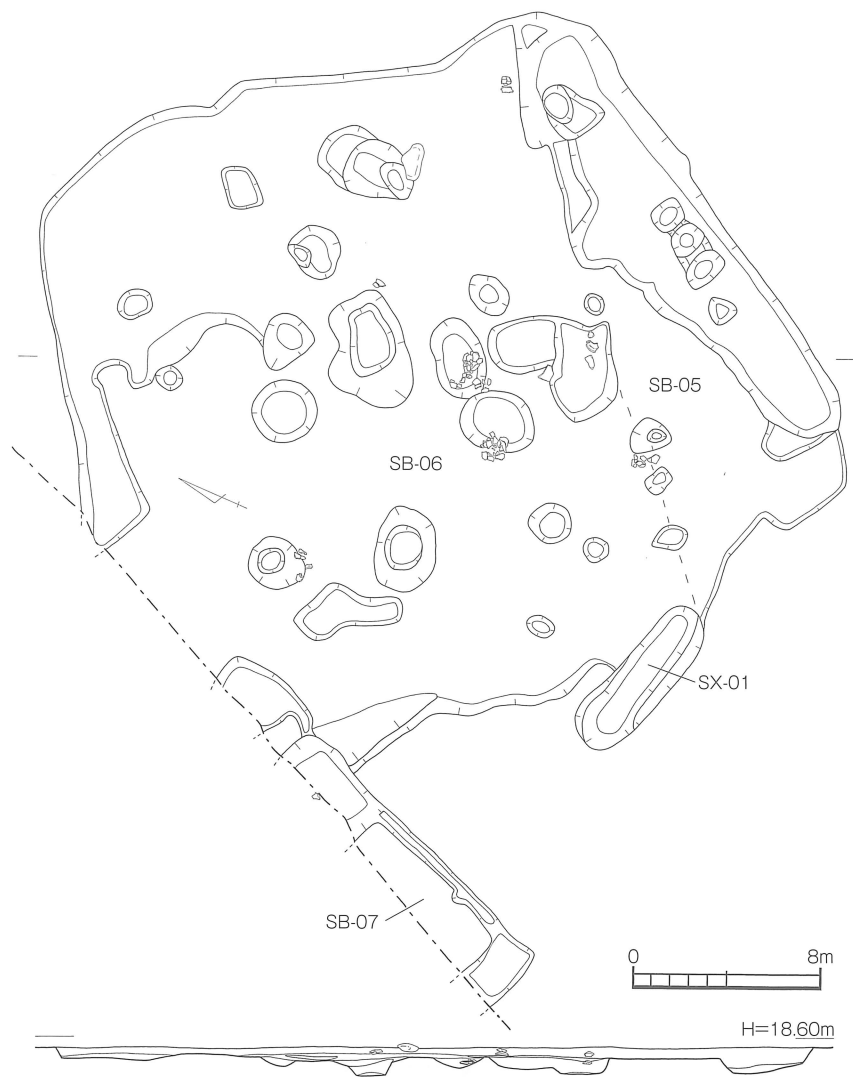
36・37は甕で、37の甕は頸部の屈曲が緩く、口唇部にキザミが付く。38・39・41は素口縁の鉢で、39の下部外面にはケズリが施される。40は高坏の坏部片で、直線的に開く。42は直口壺で頸基部が太く、頸部は直線的に真上に延びる。

5・6・7号竪穴住居及び1号不明遺構 (第10図 図版3-2・3 図版4-1～3)

5号竪穴住居は南北方向をほぼ対角とする竪穴住居で、東側壁付近で南北方向の落ち込みがある。柱穴などは確認できていない。規模は確認できる東側壁の長さが約6.1m。6号竪穴住居は、5号竪穴住居の南西側に重なるように検出されたが切り合い関係は図面から読み取れ



第9図 原ノ前遺跡 4号竪穴住居 (SB-04) 出土遺物実測図 [1/4]



第10図 原ノ前遺跡 5, 6, 7号竪穴住居 (SB-05, 06, 07) 及び
1号不明遺構 (SX-01) 実測図 [1/80]

ない。規模は長軸幅6.8m×短軸長5.9mの方形で、長軸方位はおよそN-53°-E。7号竪穴住居は西側のほとんどが調査区外で不明なところが多い。北側で6号竪穴住居を切る。

5号竪穴住居出土遺物 (第11図)

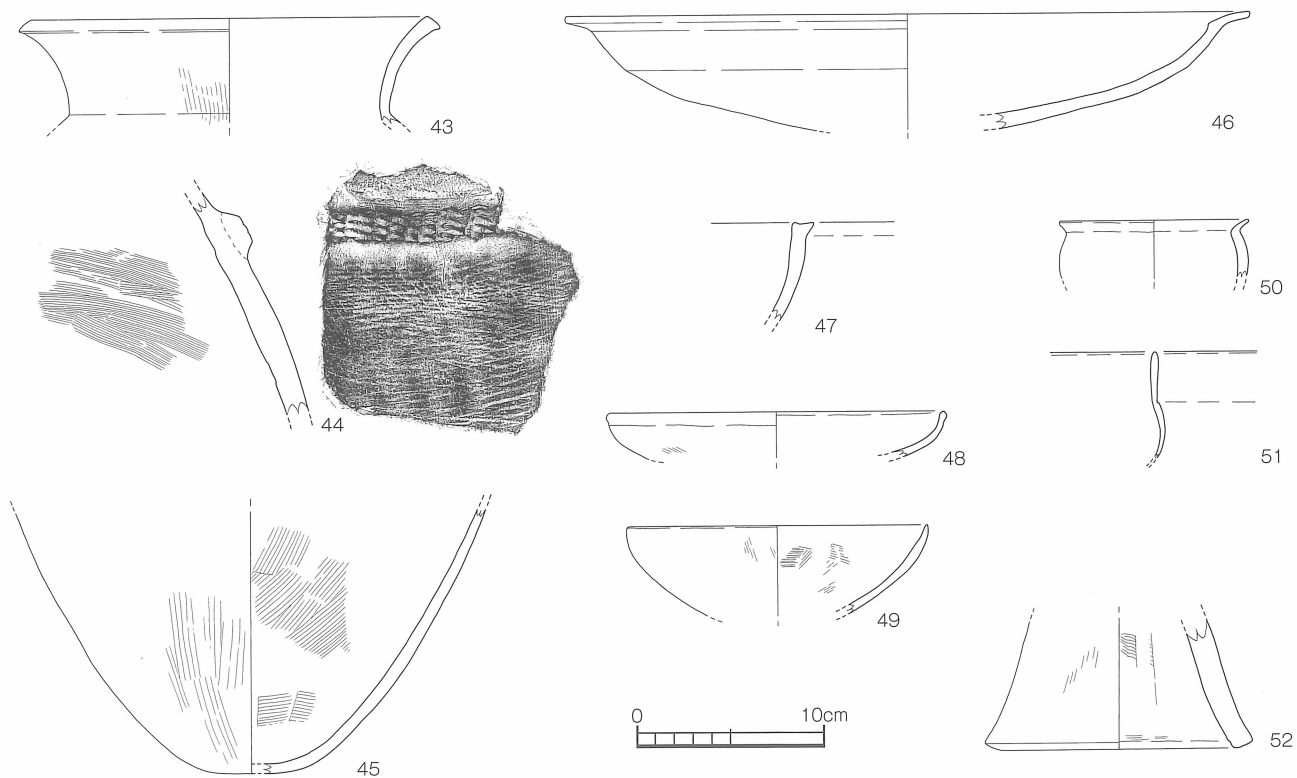
43・44は壺で、基頸部及び胴部上半に突帯を設ける。45は底部、46は高坏の坏部、47～49は鉢、48の器形は浅く、50は口縁部の短い小型の短頸壺。51は直口壺で括れがわずかで頸部は上方に直線的に立ち上がる。52は器台。

6号竪穴住居出土遺物 (第12図)

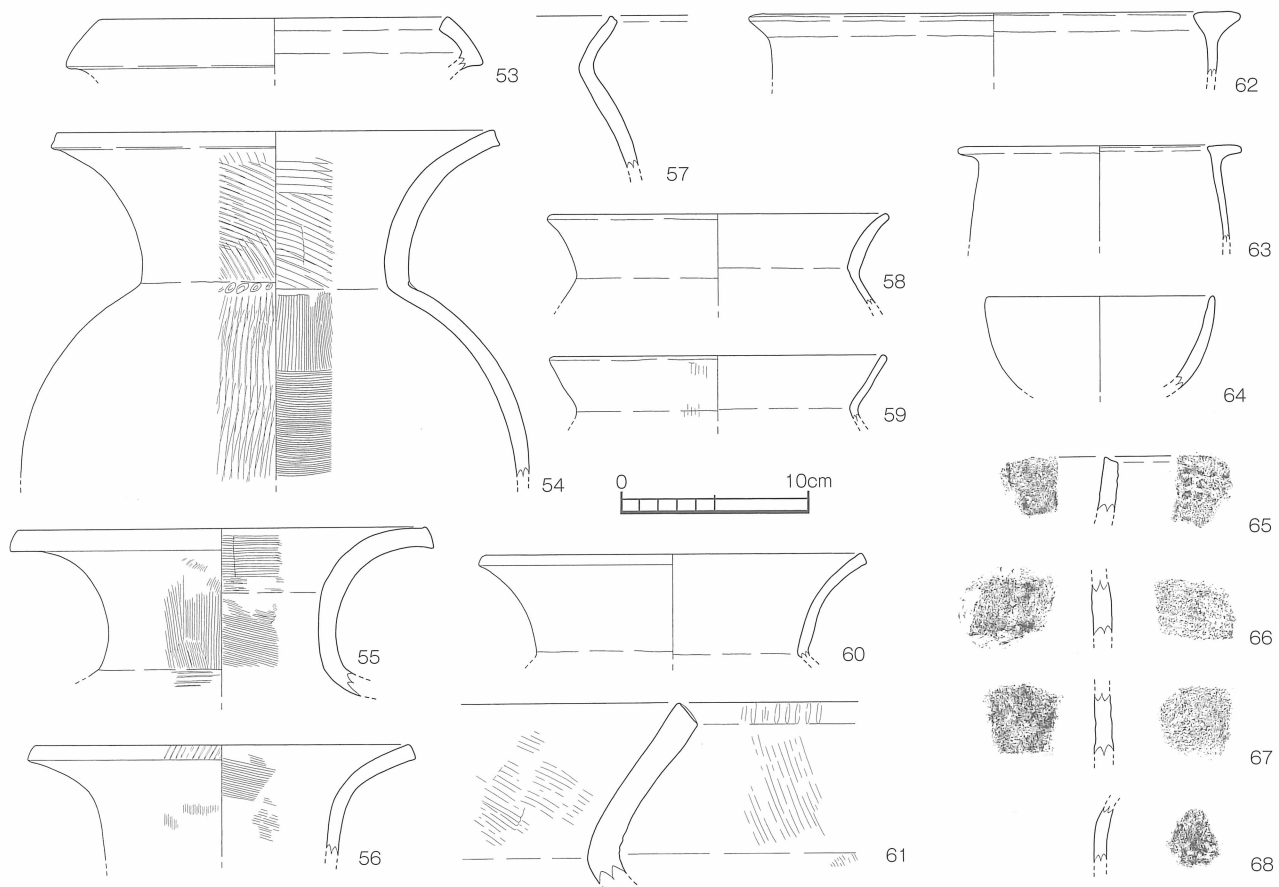
53～56・60・61は壺で53は複合口縁、56は口唇部にキザミが付く。57～59・62・63は甕、64は素口縁の鉢。65～68は縄文土器片。

7号竪穴住居出土遺物 (第14図)

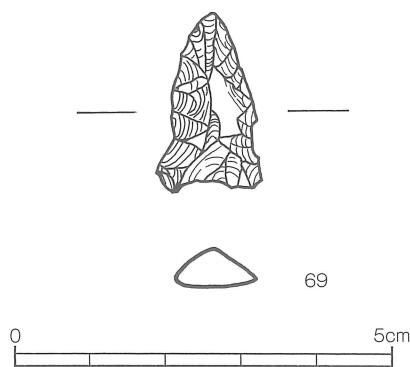
70・71は壺で、70は口縁部が外反しながら開き、口縁端部が面をなす。71は底部で



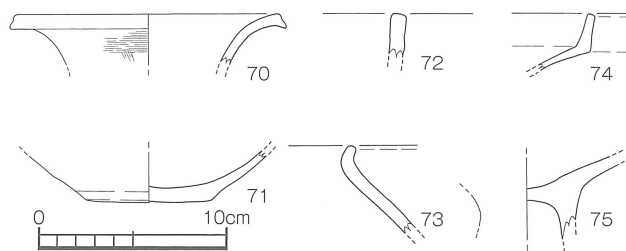
第 1 1 図 原ノ前遺跡 5号竪穴住居 (SB-05) 出土遺物実測図 [1/4]



第 1 2 図 原ノ前遺跡 6号竪穴住居 (SB-06) 出土遺物実測図 [1/4]



第 13 図 原ノ前遺跡
6 号竪穴住居 (SB-06)
出土遺物実測図 [1/1]



第 14 図 原ノ前遺跡 7 号竪穴住居 (SB-07)
出土遺物実測図 [1/4]

レンズ状を呈する。73 は短頸壺で非常に短くわずかに外反する口縁部をもつ。74 は二重口縁壺の口縁部片。75 は高坏で坏部と脚部下位を欠く。

8 号竪穴住居 (第 15 図 図版 5-1)

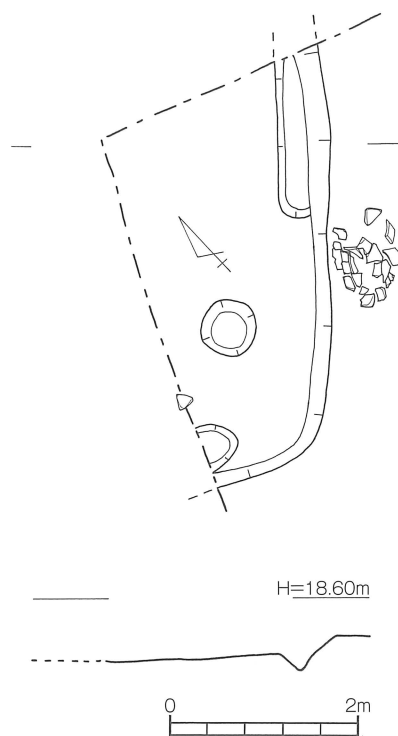
調査区の北西隅で検出された竪穴住居で、9 号竪穴住居を切る。南東側のコーナーが調査区内で確認できた程度で詳細は不明。確認できる規模は東南東側の壁が 2.4 m、南南西側の壁が 0.6 m である。

9 号竪穴住居 (第 16 図 図版 5-2・3)

調査区の北側で検出され、2・4 号土坑に切られる。調査時には「北 SB」と「SB09」の両方の表記があり、図面から複数の遺構が重複していることが推測できる。図面や調査時の写真 (図版 5 の (3)) から、北側中央においてベッド状遺構を設けた竪穴住居と考えられるものもみられるものの、切り合い関係もわからないので本報告では 9 号竪穴住居として一括して整理することとした。

9 号竪穴住居出土遺物 (第 17 図)

76 ~ 80・83 は甕で 76 ~ 79 の口縁端部は面をなし、76 の頸基部はゆるく屈曲してわずかに外反しながら立ち上がり、77 ~ 79 の口縁部は直線的に開く。80 の口縁部は頸部で緩やかに立ち上がる。81・82 は高坏で 81 は頸部で屈曲し口縁部がわずかに外反しながら開く。82 は脚部。84 ~ 87 は底



第 15 図 原ノ前遺跡 8 号竪穴住居 (SB-08) 実測図 [1/40]

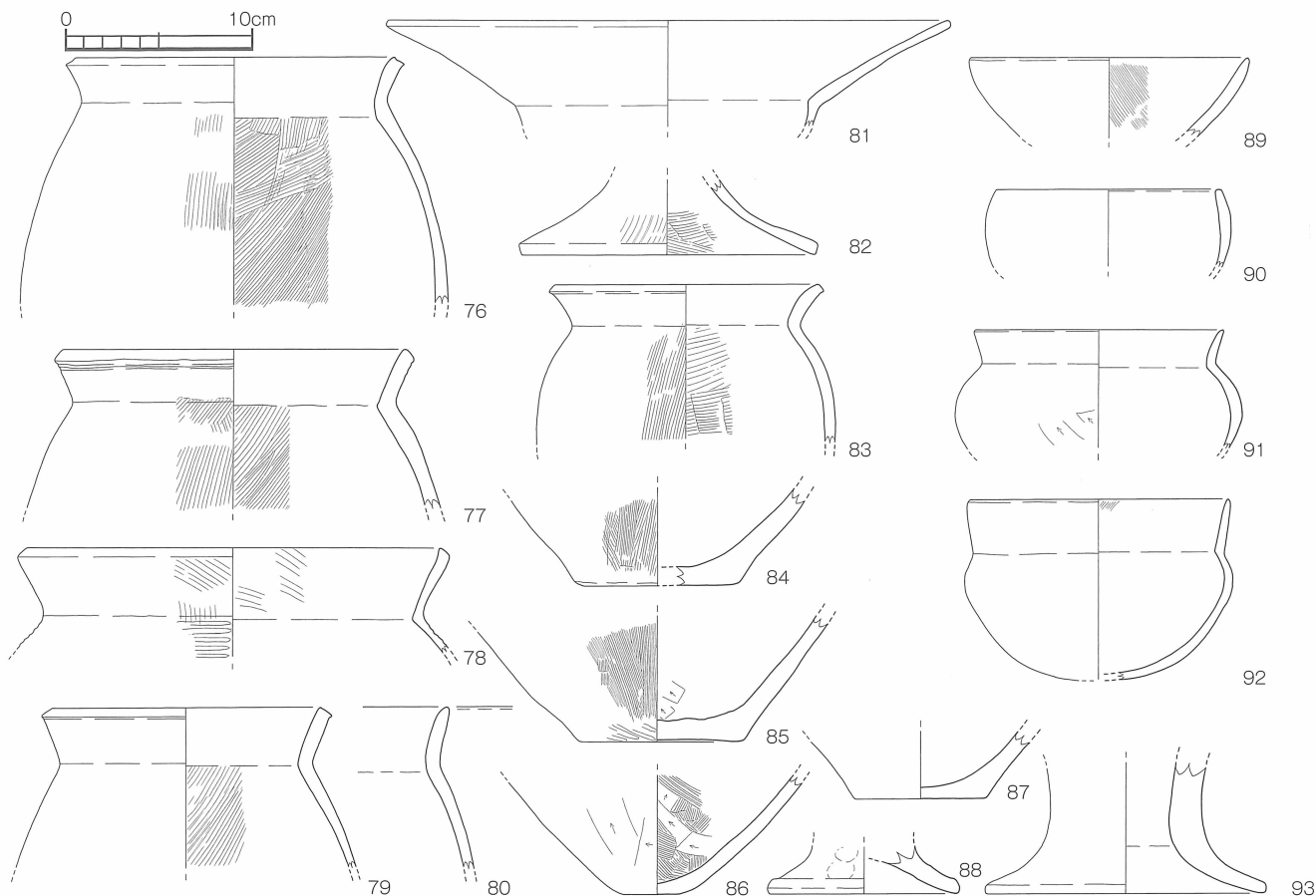


第16図 原ノ前遺跡 9号竪穴住居 (SB-09) 実測図 [1/80]

部で84・85・87は平底、86は底部径が小さく不安定なレンズ状、88は脚部片。89・90は素口縁の鉢で89は内湾しながら口縁部が直線的に広がる。90の口縁部は内湾しながら上方に立ち上がる。91・92は短頸壺で91は底部付近でケズリが施される。92は括れが少なく口縁部が直線的に開く。

1号土坑実測図 (第18図)

4号竪穴住居を西側で切る楕円形の土坑。長軸1.75m、短軸1.05m。



第 17 図 原ノ前遺跡 9 号竪穴住居 (SB-09) 出土遺物実測図 [1/4]

1 号土坑出土遺物実測 (第 19 図)

94 は素口縁の鉢、95 は脚部片。

2 号土坑 (第 20 図)

9 号竪穴住居を切る東西に長い土坑で、長さ 1.75 m、幅 0.75 m を測る。出土遺物はない。

3 号土坑 (第 21 図)

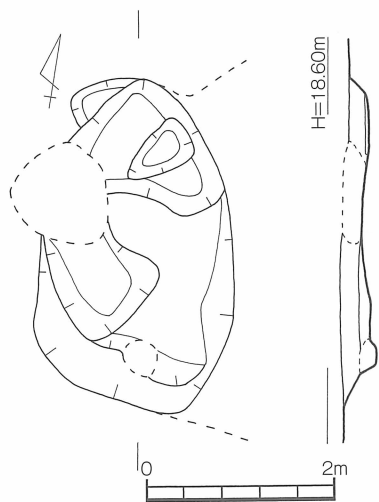
2 号土坑の東側で検出された不定形の土坑で、東側が調査区外となっている。出土遺物はない。

4 号土坑 (第 22 図)

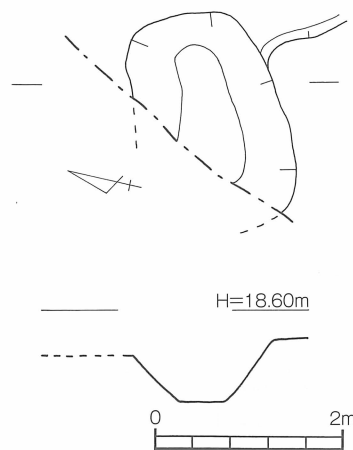
9 号竪穴住居の南側壁が西側調査区境界と交わるあたりで 9 号竪穴住居を切るかたちで検出された土坑で東西方向に長い隅丸方形の土坑である。長軸は西側が調査区外となっているが約 1.2 m、幅は約 0.8 m、出土遺物はない。

1 号溝状遺構 (第 23 図 図版 6-1)

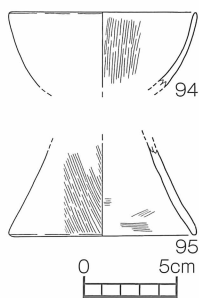
1・2 号竪穴住居の東側、4 号竪穴住居の北側で検出された北西－南東方向に走る溝状の遺構で、図面からは 1・2 号竪穴住居との切り合い関係はわからない。最大幅約 1.2 m。



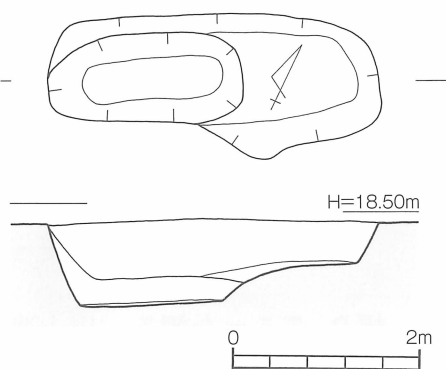
第18図
原ノ前遺跡
1号土坑 (SK-01)
実測図 [1/40]



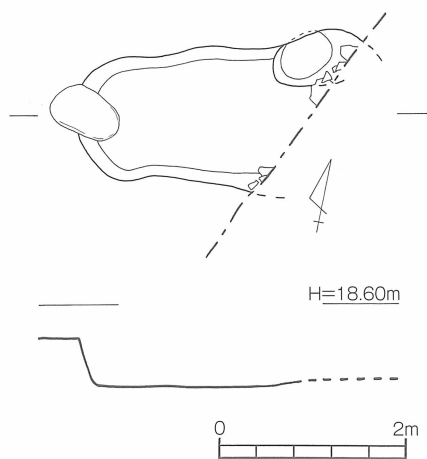
第22図 原ノ前遺跡
4号土坑 (SK-04)
実測図 [1/40]



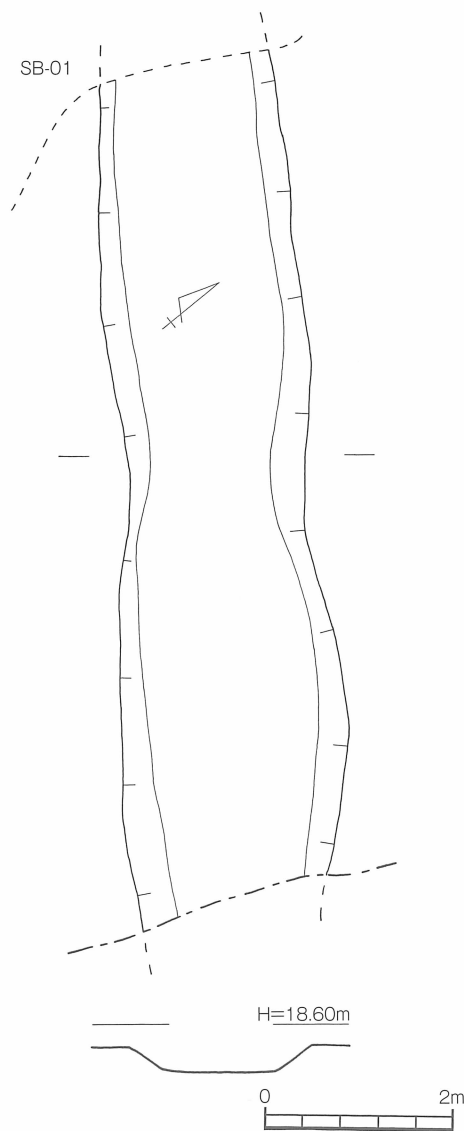
第19図
原ノ前遺跡 1号土坑 (SK-01)
出土遺物実測図 [1/4]



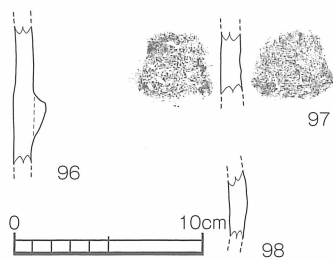
第20図 原ノ前遺跡 2号土坑
(SK-02) 実測図 [1/40]



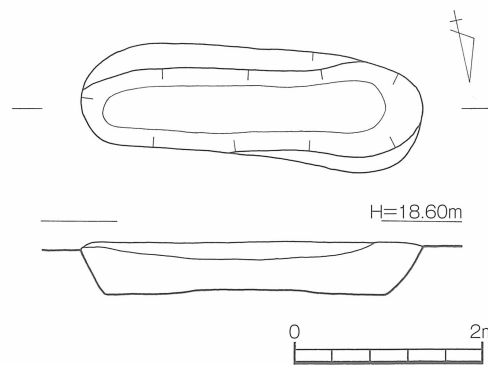
第21図 原ノ前遺跡 3号土坑
(SK-03) 実測図 [1/40]



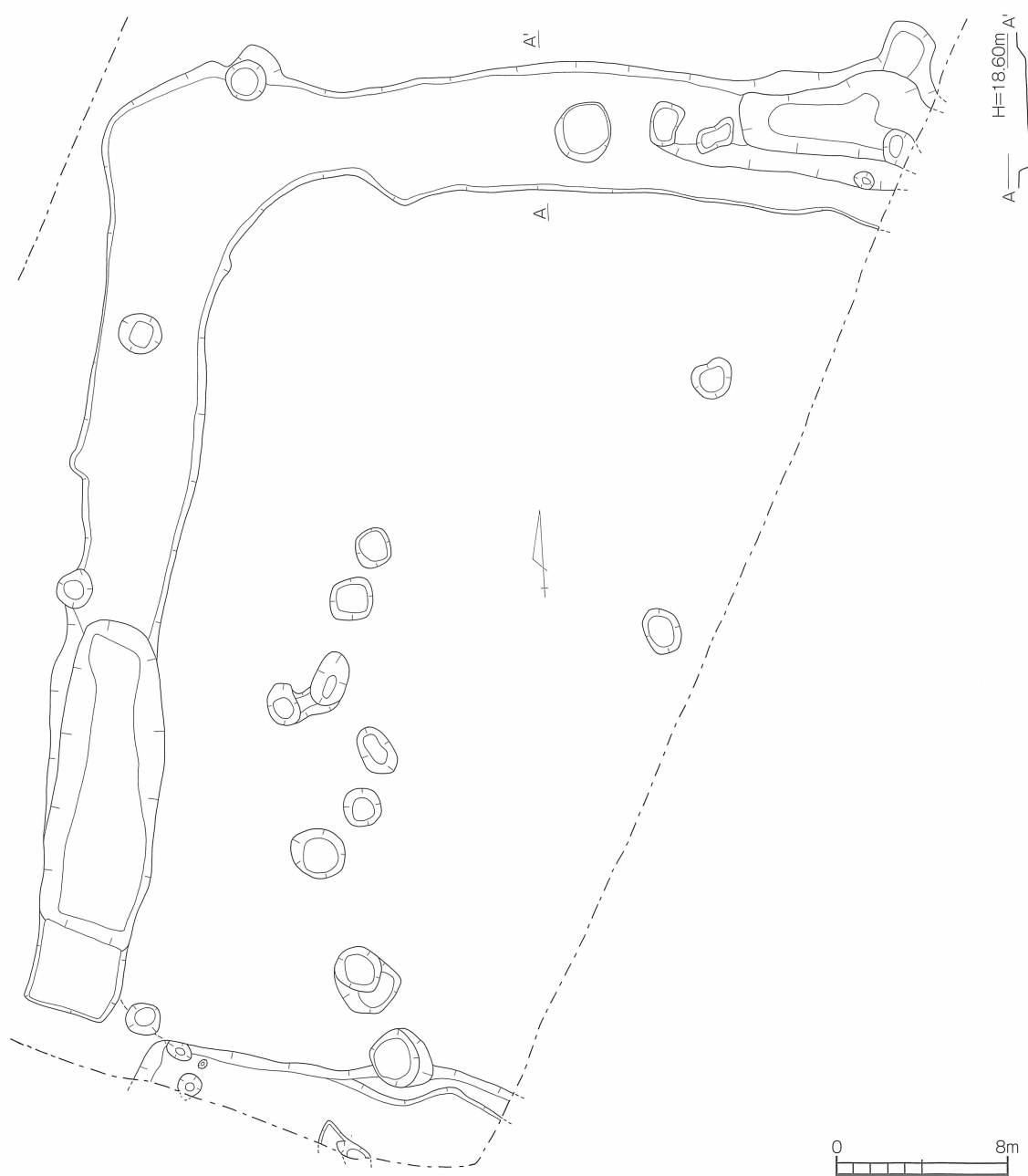
第23図 原ノ前遺跡 1号溝状遺構
(SD-01) 実測図 [1/40]



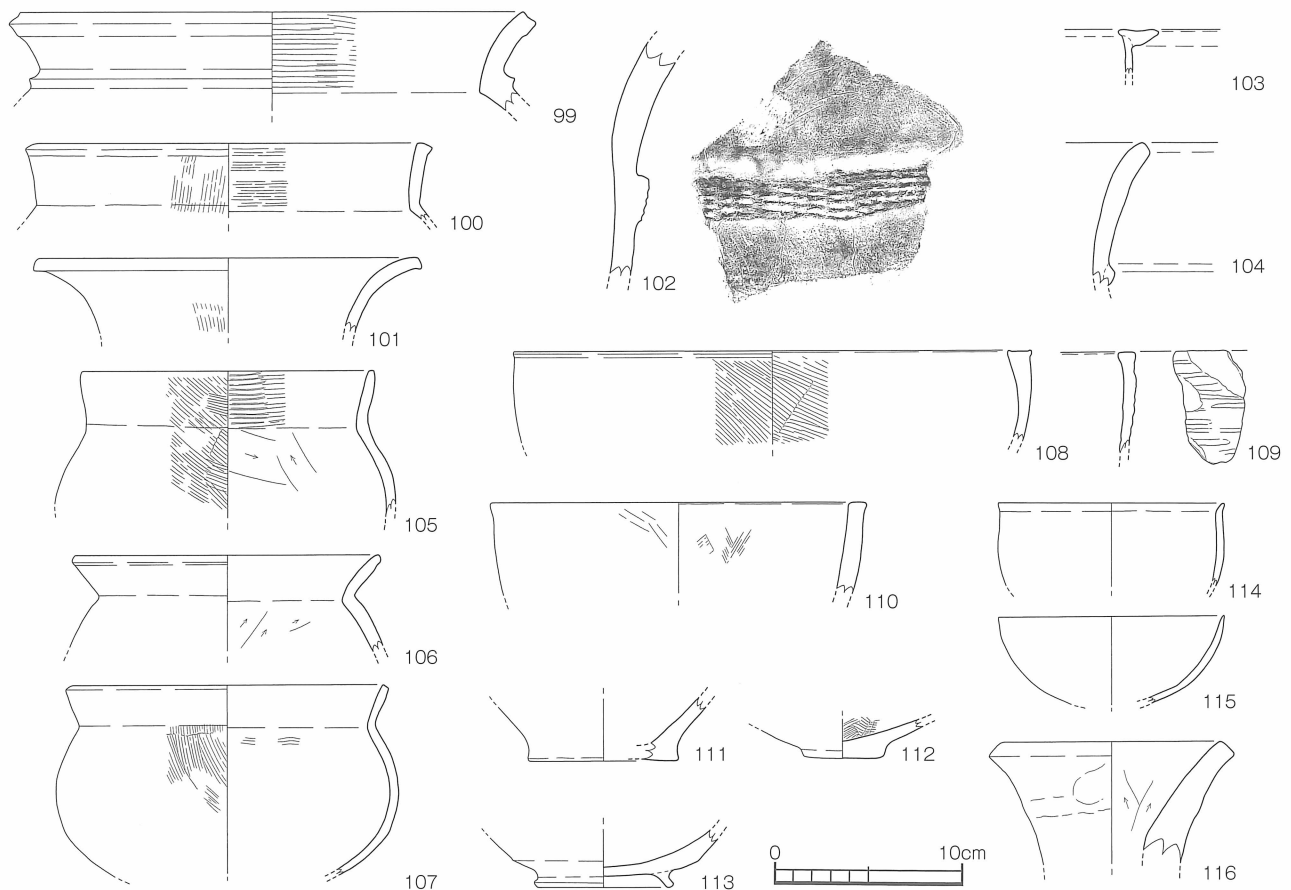
第24図 原ノ前遺跡
1号溝状遺構 (SD-01)
出土遺物実測図 [1/4]



第25図 原ノ前遺跡 1号不明遺構
(SX-01) 実測図 [1/40]



第26図 原ノ前遺跡 2号不明遺構 (SX-02) 実測図 [1/80]



第27図 原ノ前遺跡 2号不明遺構 (SX-02) 出土遺物実測図〔1/4〕

1号溝状遺構出土遺物 (第24図)

96は突帯の付く甕の胴部片か。97・98は縄文土器であるが表面が摩滅しており詳細は不明。

1号不明遺構 (第25図 図版6-2)

6号竪穴住居を南側で切るかたちで検出された、東西方向に細長い遺構で、長軸約1.8m、幅約0.8m、出土遺物は無い。

2号不明遺構 (第26図 図版6-3)

調査区南側で検出された幅1.4mの溝が方形に廻るプランを呈する遺構で、北西コーナーは方形に張り出しているようにも見えるが、南西側についてはコーナー部を検出しきれていない。溝状の遺構に囲まれた箇所については数基のピットが確認できたのみである。

2号不明遺構出土遺物 (第27図)

99・100は甕で、99は厚みのある甕の口縁部で外反しながら開き、端部付近で段を有して厚みを増し、口唇部は面をなす。頸基部に突帯が廻る。100は頸基部から口縁部が上方に向かって直線的にわずかに開く。101は外反しながら開く広口壺の口縁。102は突帯の付く壺、103・104は甕の口縁部で104は頸基部に突帯が廻る。105～107は短頸壺

で、105は口縁部がわずかに内湾しながら開く。108～110・114・115は鉢で108の口縁は内湾しながら端部付近で厚みを増し、口唇部は面をなす。114・115は小型で114はわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁端部付近で短く外反する。111は平底の甕の底部か。112は不安定なレンズ状の壺の底部か。113は高台付きの椀で上半を欠く。116は器台。

(3) 総括

今回報告する原ノ前遺跡では、弥生時代後期の集落跡が発見されている。竪穴住居は調査時の遺構番号では9棟発見されているが、切り合い関係が判らないものが多く、北側の9号竪穴住居では少なくとも3棟以上の竪穴住居が重複しているものと考えられ、全体では9棟以上の竪穴住居が存在している。調査区の南側の2号不明遺構(SX-02)は、調査時の図面では南西コーナーを欠くものの、写真などから方形に廻るプランを呈するものと思われる。溝は深さ約60cmと浅く、溝に囲まれた内部には数点のピットが検出されたのみで、どのような性格のものかは現時点では判らない。

この遺跡の西北西、約200mに位置する新庄・六反田遺跡の調査では、100棟を超える竪穴住居が発見され、その中でこの原ノ前遺跡の時期に当たる弥生時代後期に該当する竪穴住居は、原ノ前遺跡に近い東側に集中している。また現在の下新庄集落から見ると新庄・六反田遺跡は西側、この原ノ前遺跡は南側に位置しており、現在の下新庄集落のある微高地がこの時期の集落の中心と推測できる。

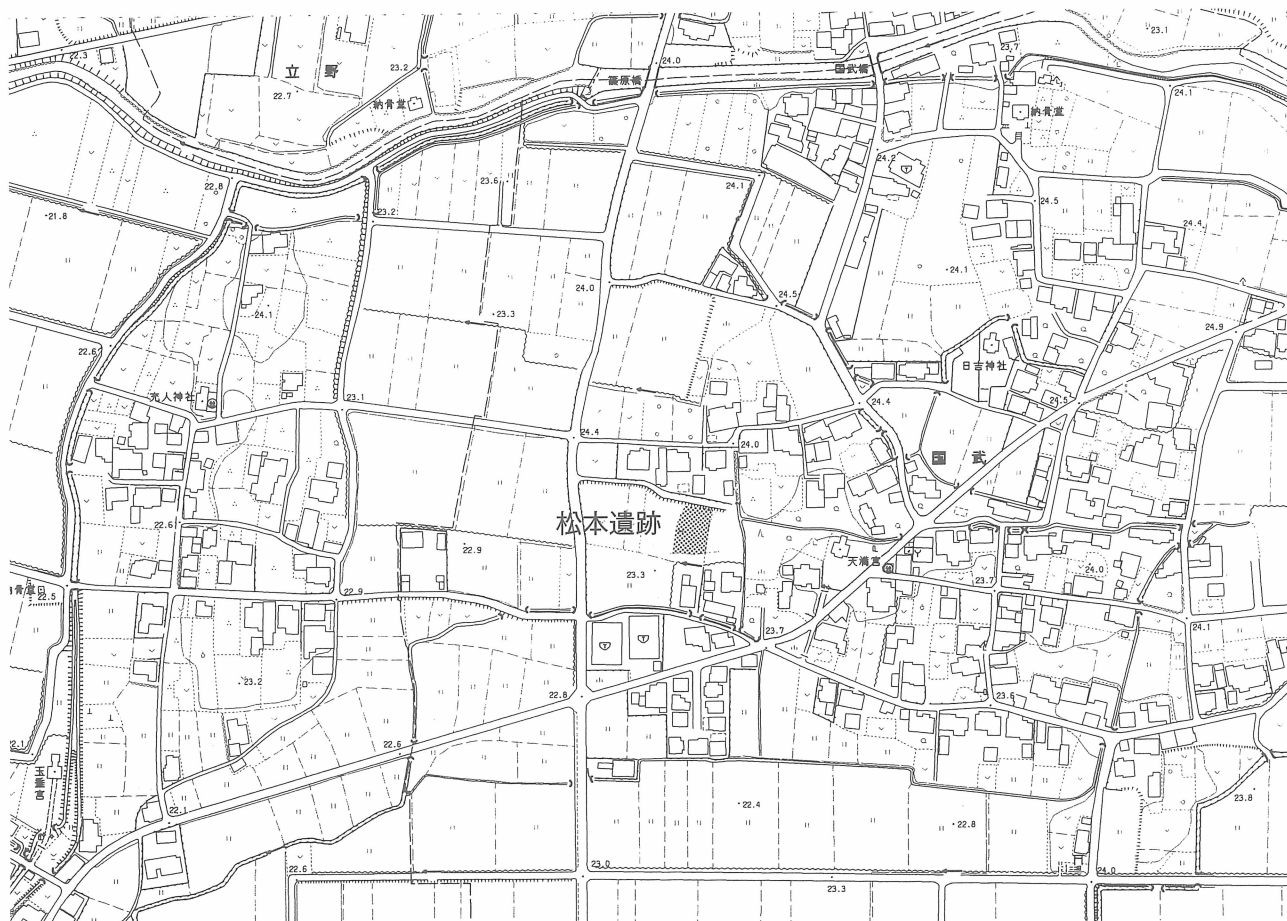
松本遺跡

(1) 発掘調査の概要

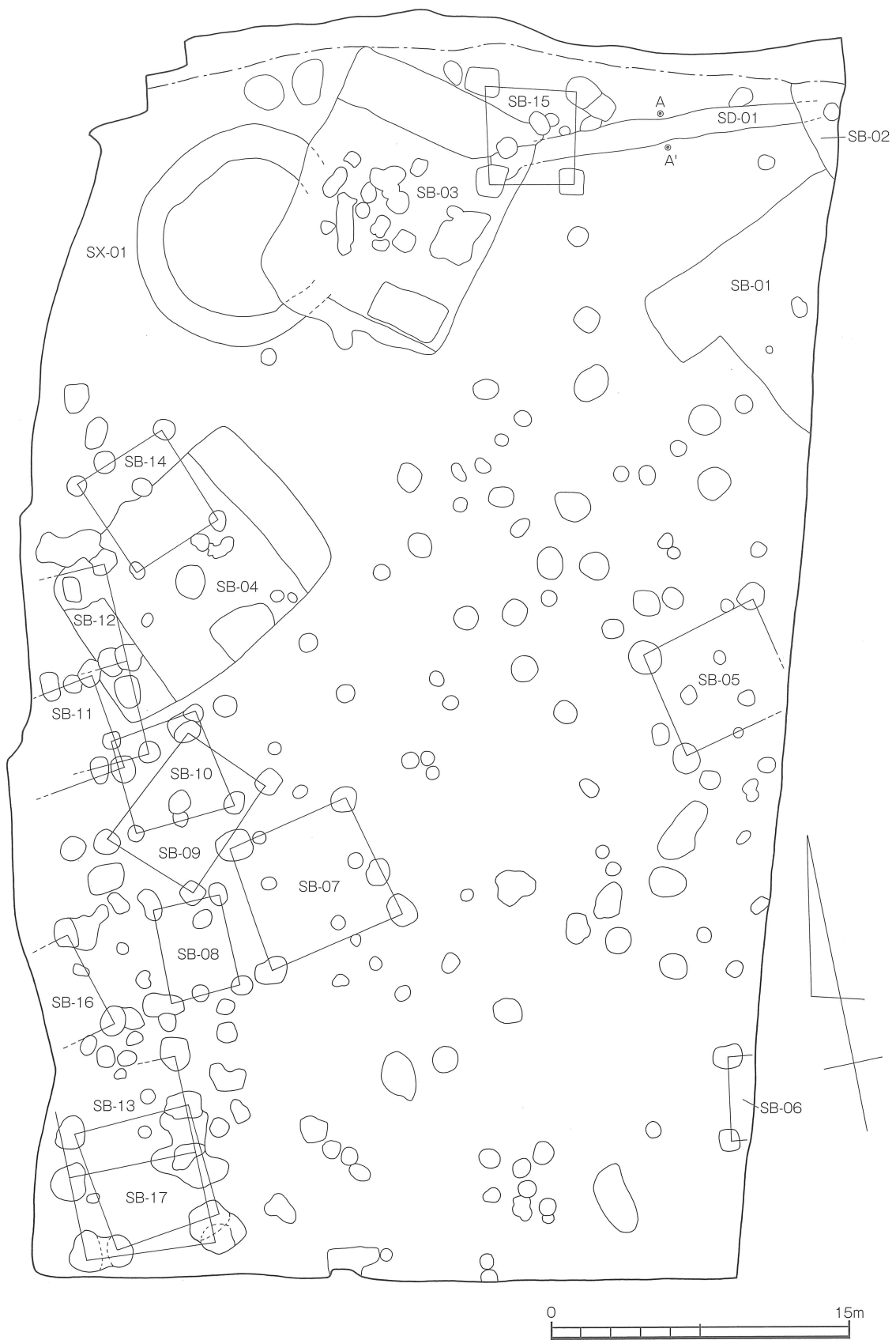
本遺跡は、八女市西部に位置する八女市国武字松本に所在しており、平成元年度調査として、平成元年12月1日から翌2年1月12日までの期間に発掘調査が実施された。調査面積は、約640㎡であった。

発掘調査区域は、国武天満宮の西側にあり、標高23m前後で周辺よりやや小高い場所に立地していた。発掘調査以前は畑地であったが、今回の圃場整備事業で、水田として削平されることにより発掘調査が実施された。

発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代の竪穴住居4軒、掘立柱建物13棟、不明遺構1基、溝状遺構1条が検出された。出土遺物は、竪穴住居・掘立柱建物・不明遺構から弥生式土器・土師器・石器が出土している。



第28図 松本遺跡位置図 [1/5,000]



第29図 松本遺跡遺構配置図 [1/150]

(2) 遺構と遺物

竪穴住居 (SB)

竪穴住居は4棟検出され、調査区北側に集中して見つかった。時期は、弥生時代後期と思われる。

SB01 (第30・48図、図版10・16)

調査区北東隅から検出されており、SB02に切られる。規模については遺構の東側半分以上が調査区域外になっているため不明である。検出の範囲で、南北長5.4m+ α 、東西長6.0~3.4m+ α で、残存高は45cmである。西側の張出部と、柱穴1本が確認された。

遺物は、弥生式土器の甕・鉢が出土している。

SB02 (第30・48図、図版10・16)

調査区北東部で検出され、SB01の北側に位置する。SB01、SD01に切られる。規模については、遺構の大半が調査区域外であるため不明である。残存高は30cmである。

遺物は、弥生式土器の鉢が出土している。

SB03 (第31・48図・50図、図版10・16・17)

調査区北側で検出された。長軸長6.9m、短軸長5.3mの長方形プランである。中央に炉を持ち、短軸側にベッドを附設している。柱穴は1本だけ検出された。残存高は40cmで、長軸の方位は、N-40°-Eである。SD01に切られており、SX01を切っている。

遺物は、土器は弥生式土器の壺・甕・高杯・鉢・器台が出土しており、石器は石包丁が出土している。

SB04 (第32・48・50・51図、図版10・17)

調査区西側中央で検出された。SB03の南側に位置する。長軸長6.8m、短軸長4.9mの長方形プランで、中央に炉を持ち、柱穴は2本である。短軸側にベッドを附設する。残存高は30cmで、長軸の方位は、N-58°-Eである。

遺物は、土器は弥生式土器の甕・鉢が出土しており、石器は石包丁・すり石・砥石が出土している。

掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物は、竪穴住居を取り囲むように配置されており、規模が1間×1間のもの11棟、2間×1間のもの2棟が検出され、大半は弥生時代後期のものと思われる。

SB05 (第33図、図版11)

調査区東側の中程で検出され、SB01の南側に位置する。規模は1間×1間で、長軸長3.3m、短軸長3.0mである。床面積は9.9m²で、方位はN-72°-Eである。

遺物は、出土していない。

S B 0 6 (第 3 4 図・図版 1 2)

調査区南東部に位置する。規模については、遺構東側が調査区域外で、柱穴 2 本のみの検出であるため不明である。南北長 2.3 m である。

遺物は、出土していない。

S B 0 7 (第 3 5 図、図版 1 2)

調査区西側で検出された。規模は 1 間×1 間で、長軸長 3.9 m、短軸長 3.5 m である。床面積は 13.65 m²で、方位は N-72°-E である。

遺物は、出土していない。

S B 0 8 (第 3 6 図、図版 1 2)

調査区西側で検出され、S B 0 7 の西側に位置する。規模は 1 間×1 間で、長軸長 2.4 m、短軸長 1.8 m である。床面積が 4.42 m²で、本遺跡の掘立柱建物中最小である。方位は N-0° である。

遺物は、出土していない。

S B 0 9 (第 3 7 図、図版 1 3)

調査区西側で検出され、S B 1 0 と切り合っている。規模は 1 間×1 間で、長軸長 3.5 m、短軸長 2.8 m である。床面積 9.8 m²で、方位は N-45°-E である。

遺物は出土していない。

S B 1 0 (第 3 8 図、図版 1 3)

調査区西側で検出され、S B 0 9・1 1・1 2 と切り合う。規模は 1 間×1 間で、長軸長 2.7 m、短軸長 2.5 m である。床面積は 6.75 m²で、方位は N-85°-E である。

遺物は出土していない。

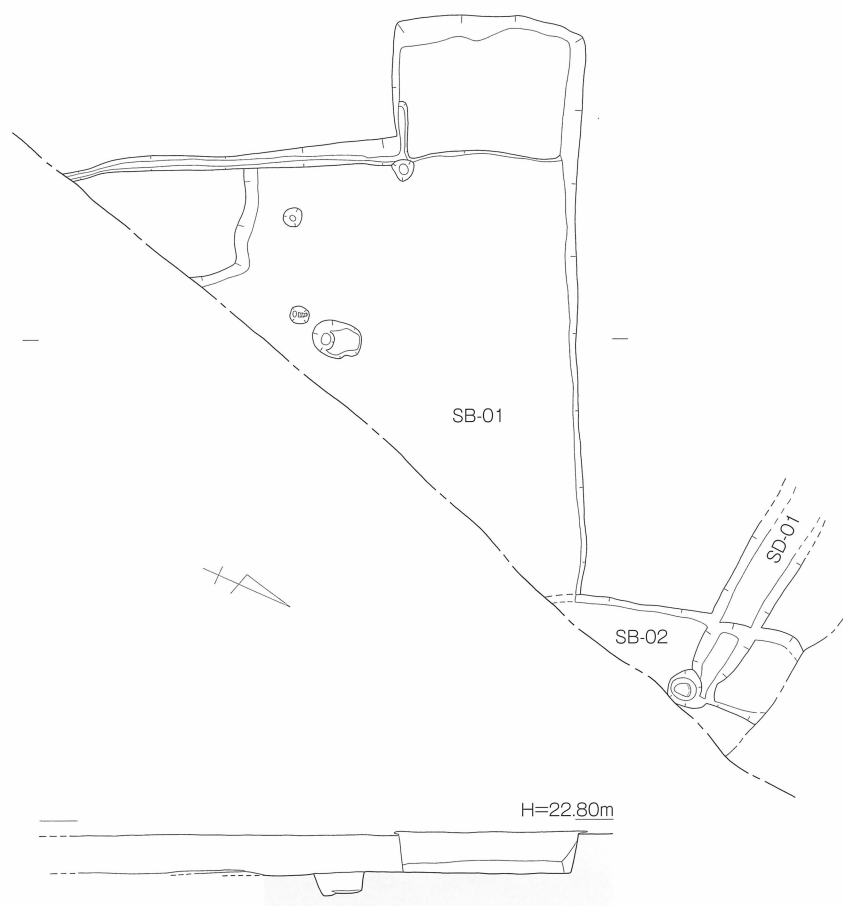
S B 1 1 (第 3 9・4 8 図、図版 1 3・1 8)

調査区西側で検出され、S B 1 0・S B 1 2 と切り合っている。規模は、西側が調査区域外で、柱穴 2 本のみの検出であるため不明である。南北長 2.4 m である。

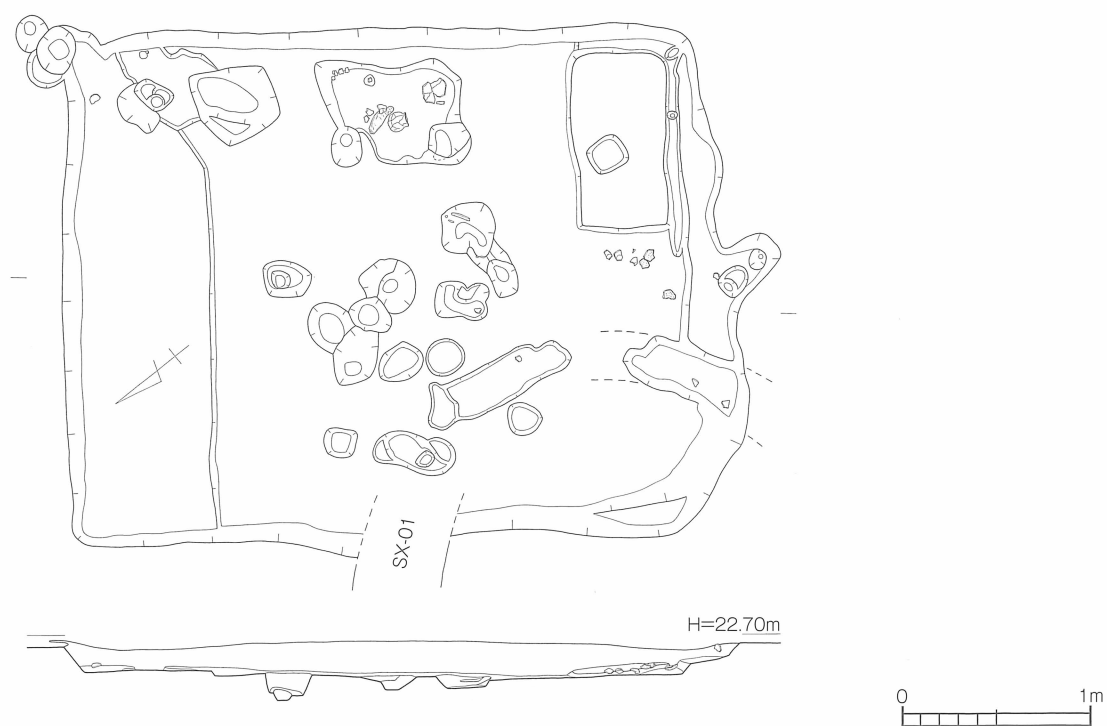
遺物は、土師器の壺・埴が出土している。

S B 1 2 (第 4 0 図、図版 1 3)

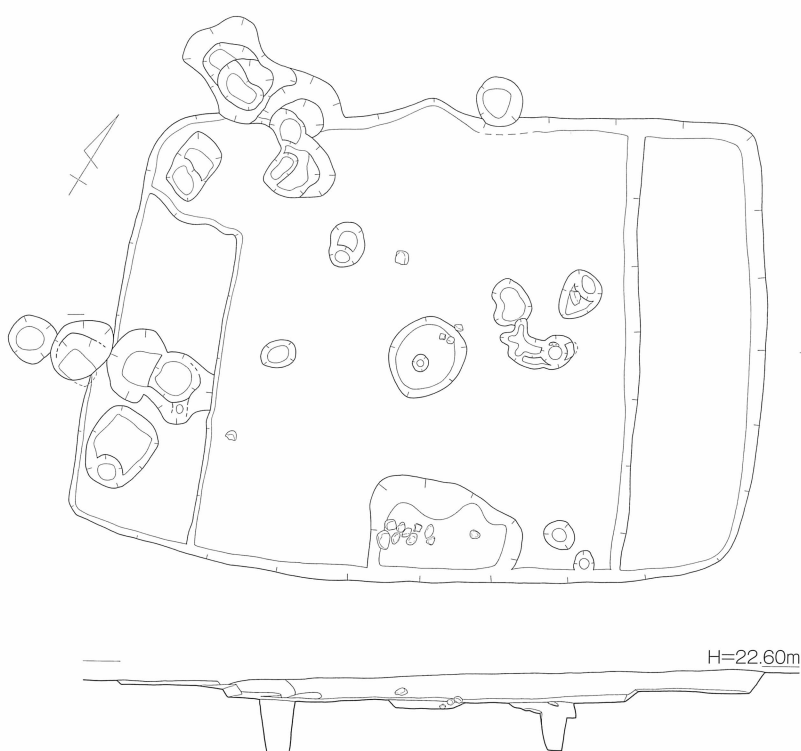
調査区西側で発見されており、S B 0 4 竪穴住居を切り、S B 1 1 掘立柱建物と切り合う。規模は、遺構西側が調査区域外で、柱穴 3 本のみの検出であるため不明である。南北長 5.2 m で、本遺跡の掘立柱建物のなかでは最大である。



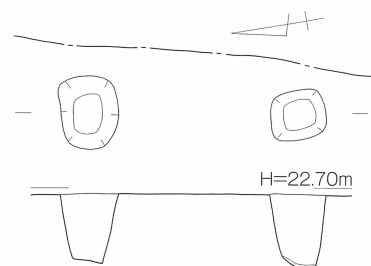
第30図 松本遺跡 1, 2号竪穴住居 (SB01, 02) 実測図 [1/80]



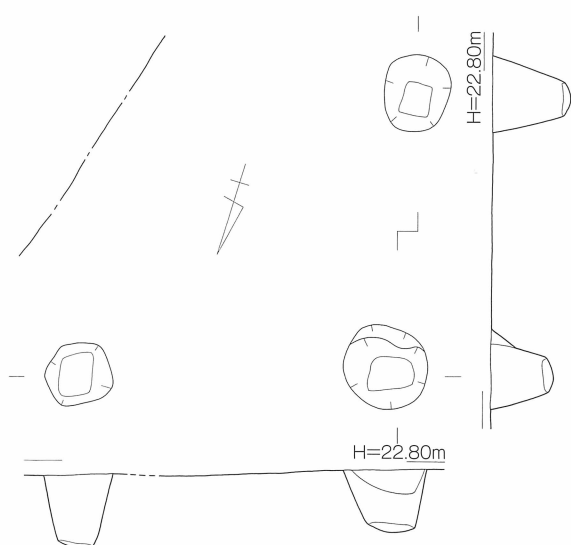
第31図 松本遺跡 3号竪穴住居 (SB03) 実測図 [1/80]



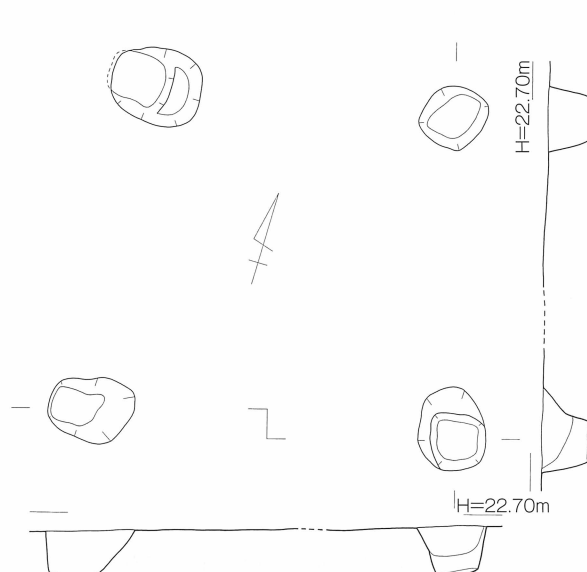
第32図 松本遺跡 4号竪穴住居 (SB04) 実測図
[1/80]



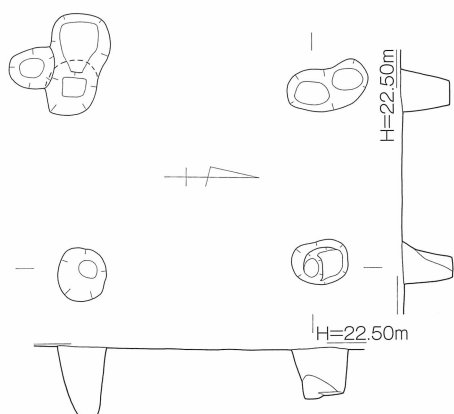
第34図 松本遺跡 6号掘立柱建物 (SB06)
実測図 [1/80]



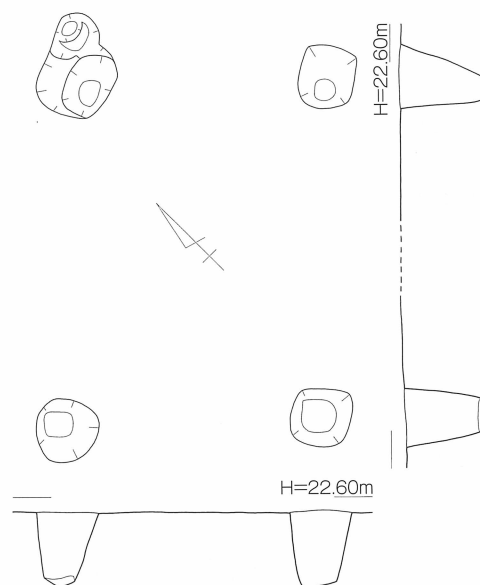
第33図 松本遺跡 5号掘立柱建物 (SB05) 実測図 [1/80]



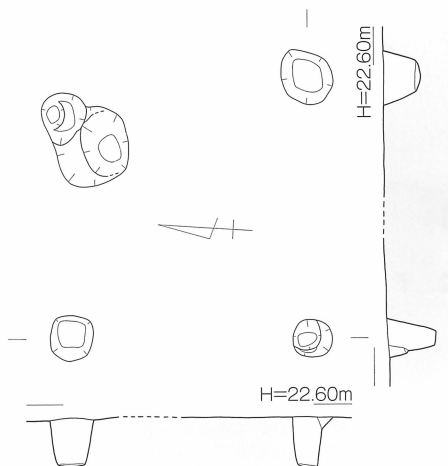
第35図 松本遺跡 7号掘立柱建物 (SB07) 実測図 [1/80]



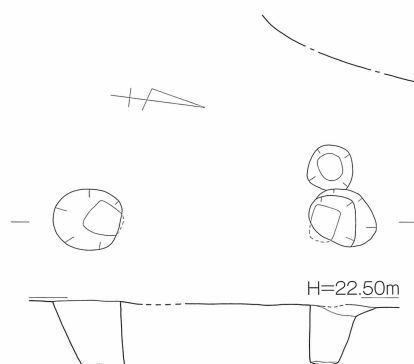
第36図 松本遺跡 8号掘立柱建物 (SB08) 実測図 [1/80]



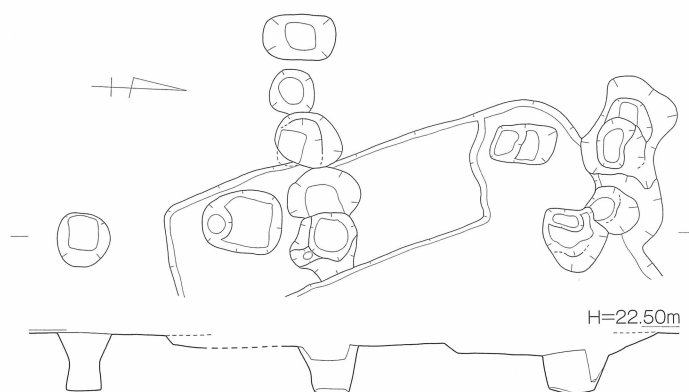
第37図 松本遺跡 9号掘立柱建物 (SB09) 実測図 [1/80]



第38図 松本遺跡 10号掘立柱建物 (SB10) 実測図 [1/80]



第39図 松本遺跡 11号掘立柱建物 (SB11) 実測図 [1/80]



第40図 松本遺跡 12号掘立柱建物 (SB12) 実測図 [1/80]

遺物は出土していない。

S B 1 3 (第 4 1・4 9 図、図版 1 8)

調査区の南西隅に位置し、S B 1 7 と切り合う。規模は 2 間×1 間で、南北長 5.0 m、東西長 3.3 m である。床面積は約 16.5 m²で、方位は N-5°-W である。

遺物は、土師器の壺が出土している。

S B 1 4 (第 4 2・4 9 図、図版 1 8)

調査区北西に位置し、S B 0 4 竪穴住居を切っている。規模は、1 間×1 間で長軸長 2.8 m、短軸長は約 2.6 m である。床面積は約 7.28 m²で、方位は N-25°-W である。

遺物は、土師器の甕が出土している。

S B 1 5 (第 4 3 図、図版 1 2)

本遺跡の掘立柱建物としては、唯一調査区北側で検出されており、S B 0 3 竪穴住居を切っている。規模は 1 間×1 間で、南北長 2.4 m、東西長約 2.4 m である。床面積は 5.76 m²で、方位は N-15°-E である。

遺物は出土していない。

S B 1 6 (第 4 4 図)

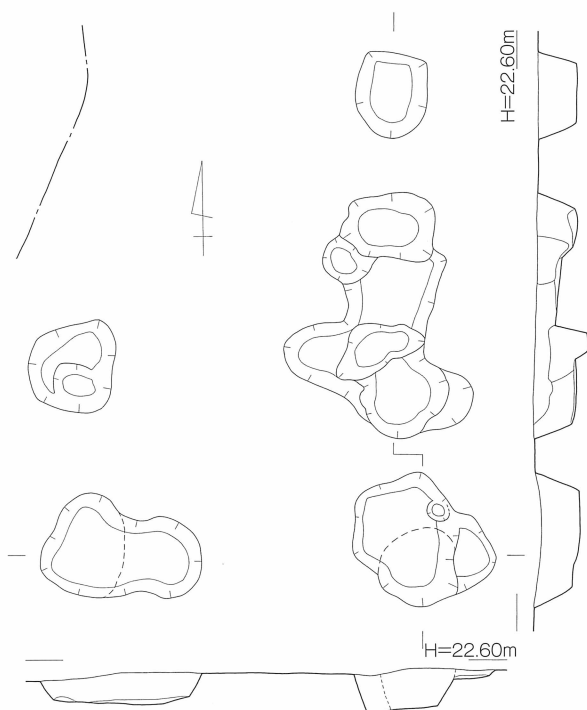
調査区南西部で見つかっており、規模は西側が調査区域外であり、柱穴 2 本のみの検出であるため不明である。南北長 2.6 m である。

遺物は出土していない。

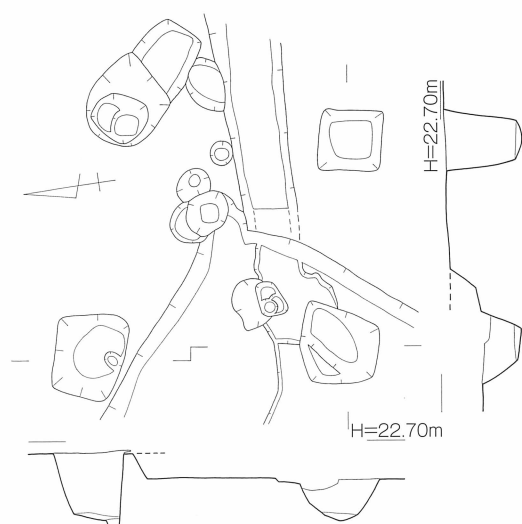
S B 1 7 (第 4 5 図、図版 1 3)

調査区南西隅で検出されており、S B 1 3 と切り合う。規模は 1 間×1 間で、長軸長 3.1 m、短軸長 2.8 m である。床面積は約 8.68 m²で、方位は N-65°-E である。

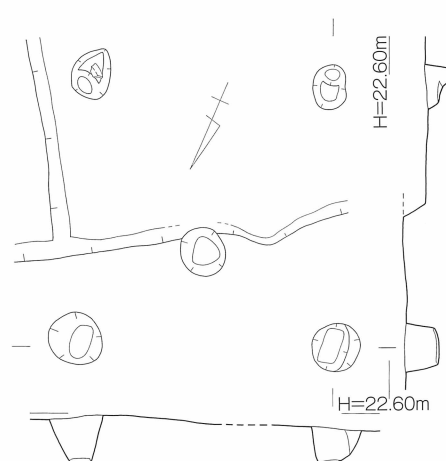
遺物は出土していない。



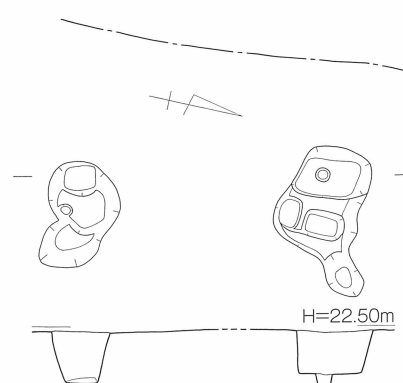
第41図 松本遺跡 13号掘立柱建物
(SB13) 実測図 [1/80]



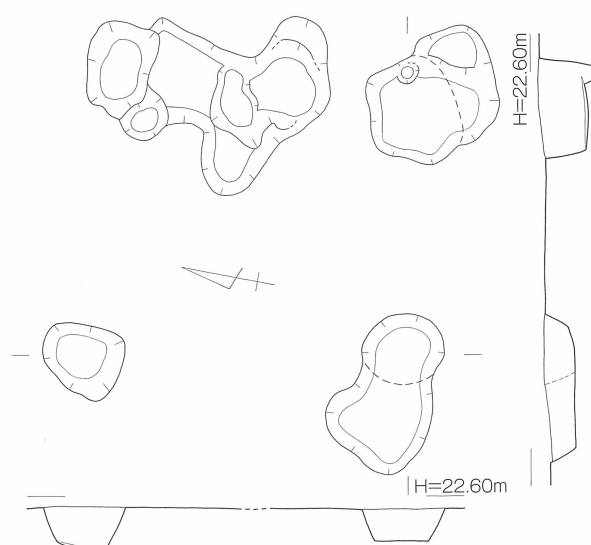
第43図 松本遺跡 15号掘立柱建物
(SB15) 実測図 [1/80]



第42図 松本遺跡 14号掘立柱
建物 (SB14) 実測図
[1/80]



第44図 松本遺跡 16号掘立柱
建物 (SB16) 実測図
[1/80]



第45図 松本遺跡 17号掘立柱建物 (SB
17) 実測図 [1/80]

不明遺構（S X）

不明遺構（円形周溝状遺構）は、1基のみが検出された。

S X 0 1（第46・49図、図版13・14・18）

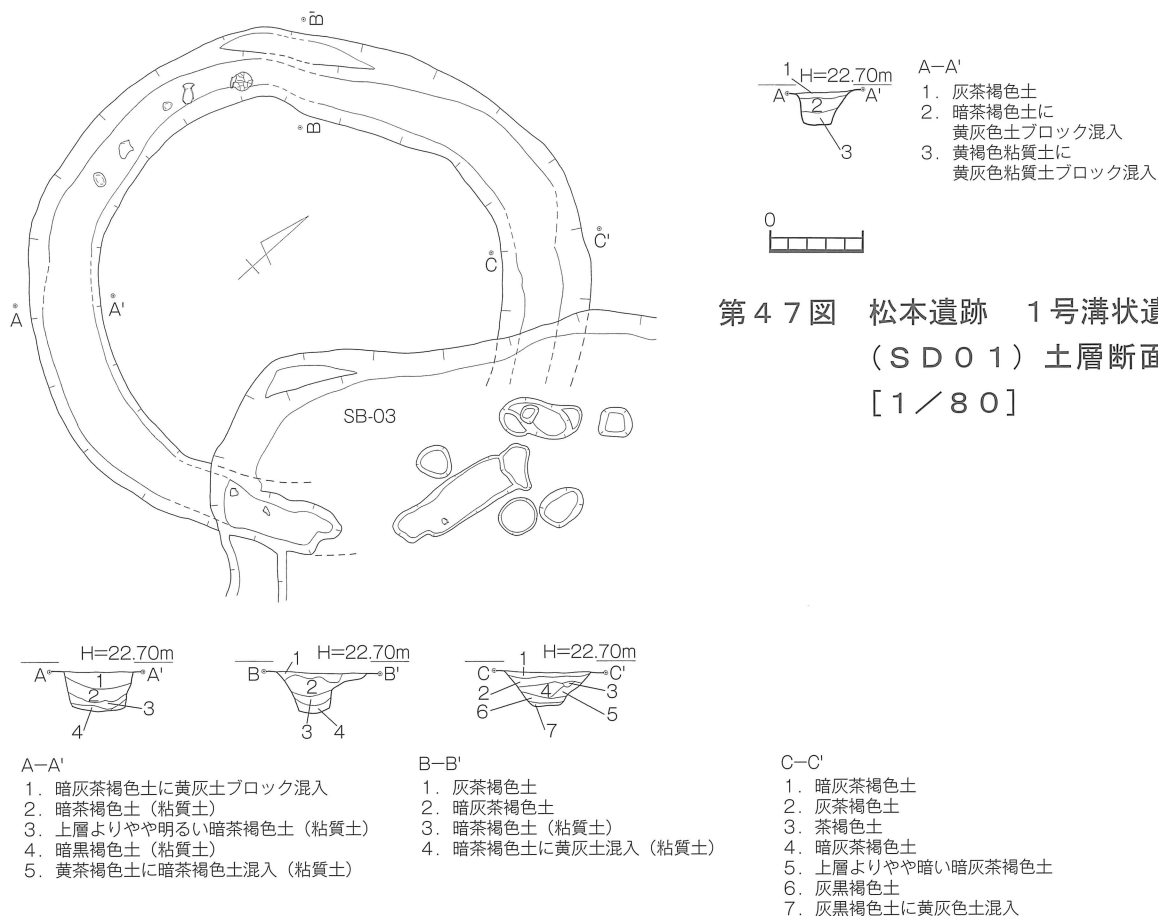
調査区北側で検出されており、S B 0 3 竪穴住居に切られる。長軸長6 m、短軸長5.4 mで楕円形に近い。周溝断面はU字形を呈し、床面幅は約55 cmで、内側傾斜がやや緩やかである。埋土は、4層～7層見られた。

遺物は、弥生式土器の壺・器台が出土している。

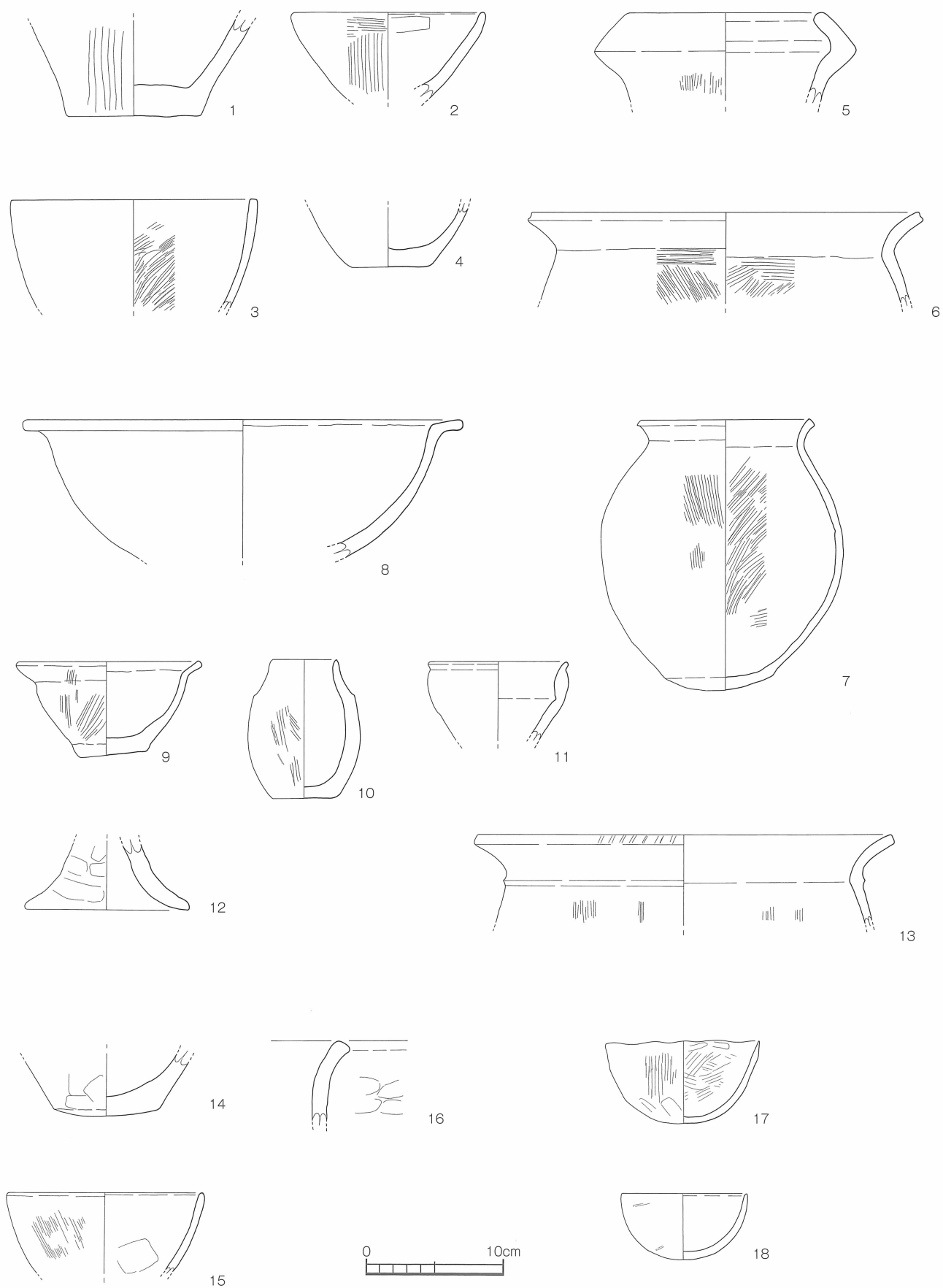
S D 0 1（第47図、図版13・14）

調査区北側で検出されており、S B 0 2・0 3 竪穴住居を切り、S B 1 5 掘立柱建物に切られる。東西方向であるが、東側は調査区域外で西側は検出できていない。検出長9 mで、残存幅は60 cm、残存高は20 cm～30 cmである。断面は逆台形で、南側が緩やかに立ち上がる。

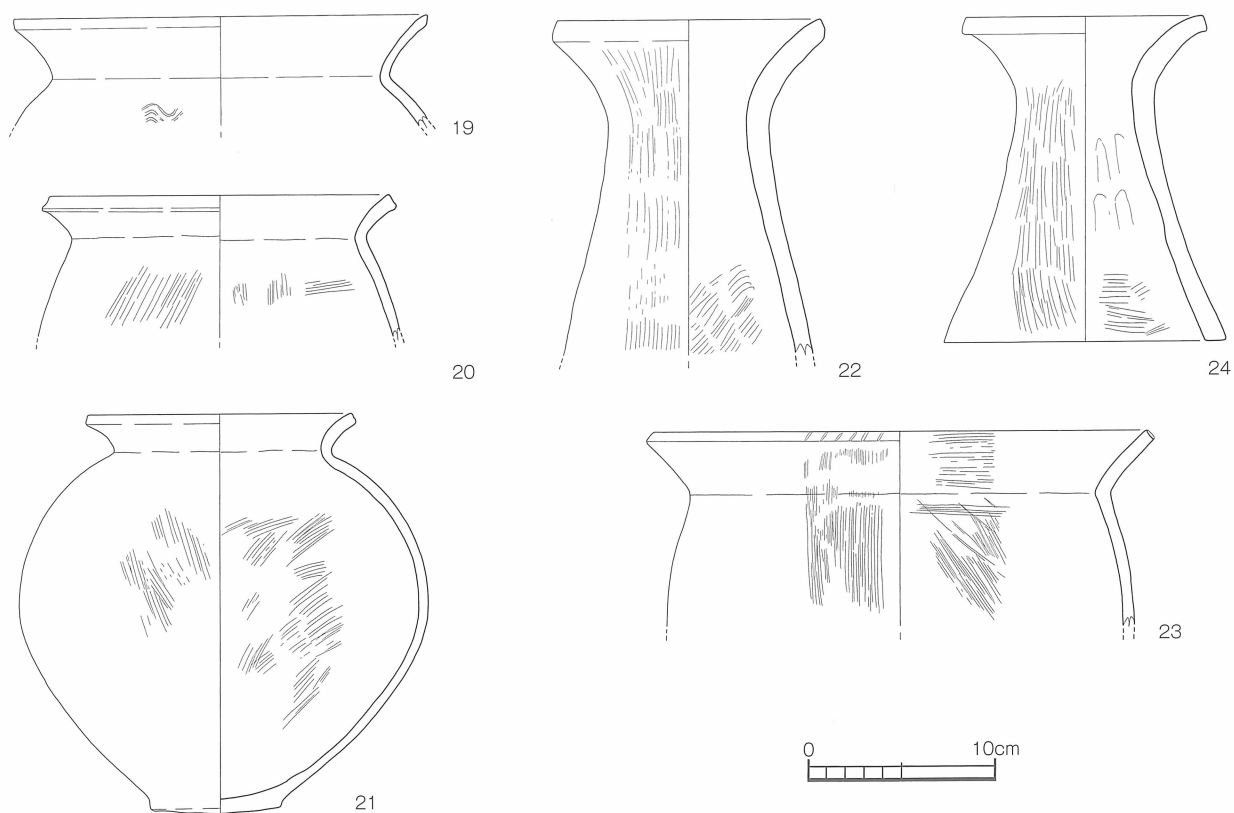
遺物は、弥生式土器が出土しているが、細片であるため図示できない。



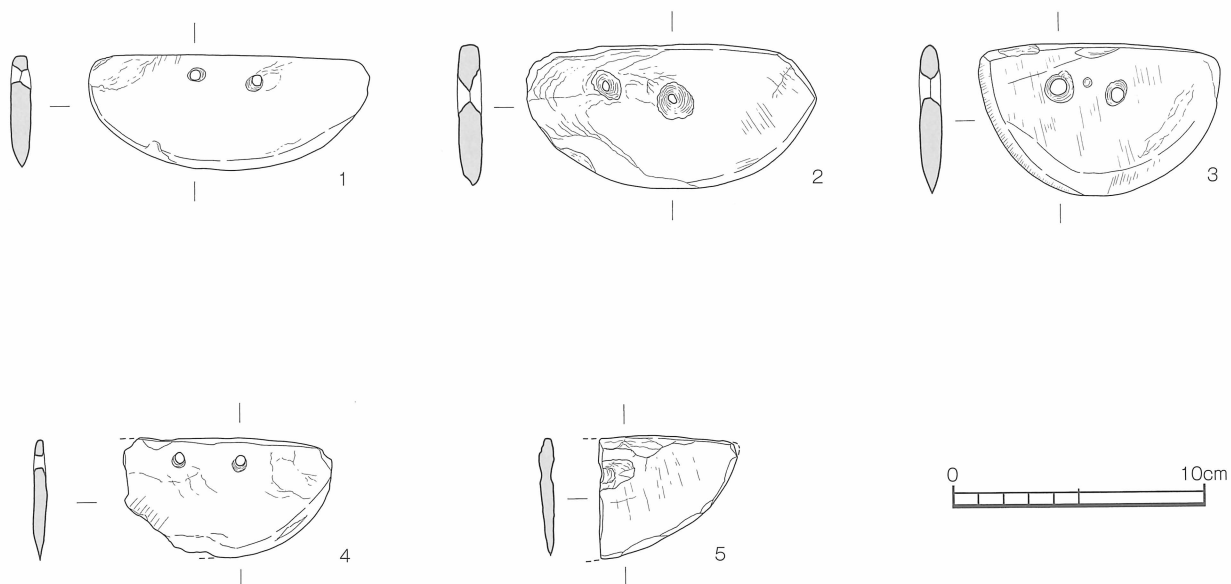
第46図 松本遺跡 1号不明遺構（S X 0 1）実測図・土層断面図 [1/80]



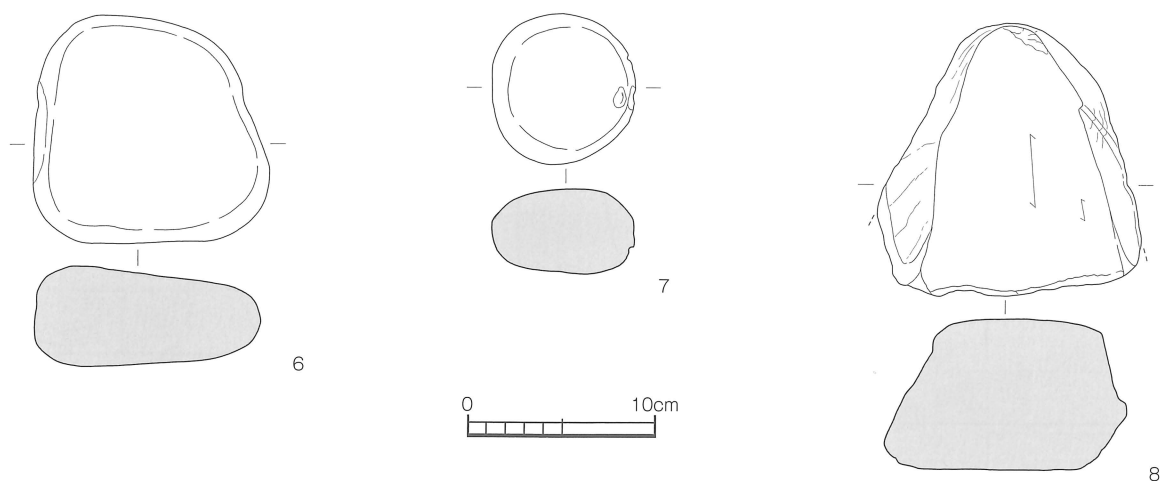
第48図 松本遺跡 1～4号竪穴住居（SB01～04）・11号掘立柱建物（SB11）
出土土器実測図 [1/4]



第49図 松本遺跡 13, 14号掘立柱建物 (SB13, 14)・1号不明遺構 (SX01)・ピット出土土器実測図 [1/4]



第50図 松本遺跡 3, 4号竪穴住居 (SB03, 04) 出土石製品実測図 [1/3]



第51図 松本遺跡 4号竪穴住居（SB04）出土石製品実測図〔1／4〕

（3）総括

今回の発掘調査により、弥生時代後期を中心とした集落が発見され、遺構については、前述のとおりである。竪穴住居は北側に集中しており、規模が確認できたものは2軒のみであった。平面プランは、いずれも長方形で、柱穴は長軸方向に2本あり、中央に炉を持っている。（SB03・SB04）また、両端にベッド状遺構が設置されており、長軸片側に土壇が設けられていた。規模についてもほぼ同じである。出土遺物はSB03が最も多く、複合口縁の壺などが出土している。また、SB04からは4点の片岩製の石包丁が出土しており、うち1点は穿穴途中のものであった。同遺構からは砥石なども見つかり、ここで製造されたと思われる。

また、掘立柱建物は調査区域の西側に多く分布しており、切り合いから3期が確認された。規模は、1間×1間、2間×1間のものが見つかり、前者は小型のもの（SB08・10・11・14・15）、中型のもの（SB05・07・09）の2種類が見られた。後者（SB12・13）については同じ規模と思われる。大半は弥生時代後期のものと思われるが、SB12・14・15は、竪穴住居を切っており、SB14の柱穴から土師器が出土しており、古墳時代のものと思われる。

不明遺構（円形周溝状遺構）は祭祀関係のものと思われ、SB03に切られていることから、竪穴住居よりやや古い時期に存在したと思われる。

本調査によって、平成元年度発掘調査が実施された「篠原遺跡1～4地点」の弥生後期の集落がさらに南側まで広がっていたことが確認された。

(単位: c m)

遺跡名	挿図 番号	遺物 番号	整理番号	遺構番号	種類	器種	残存	胎土・素地	寸法			色調	調整
									口径 (復元口径)	底径 (復元底径)	器高 (復元器高)		
原ノ前遺跡	5	1	R-004	SB-01	弥生土器	壺	頸部片	片岩、石英を含む	(23.5)				内:ハケ目/外:口唇部にキザミ
原ノ前遺跡	5	2	R-008	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～ 頸部片					淡黄灰褐色	内:ハケ目/外:ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	5	3	R-006	SB-01	弥生土器	壺	複合口縁					淡黄灰色	ナデ
原ノ前遺跡	5	4	R-001	SB-01	弥生土器	鉢	口縁部片		(16.4)			内:暗黄灰褐色 外:淡黄灰褐色	内:ハケ目/外:ハケ目、ヘラ 状器具痕
原ノ前遺跡	5	5	R-012	SB-01 No. 05	弥生土器	鉢	4/5片		(19.4)		10.0	内:黒灰色 外:淡黄褐色	内:ナデ/外:ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	5	6	R-029	SB-01 No. 02	弥生土器	鉢	口縁部片		(22.2)			淡黄灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	7	R-005	SB-01	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	8	R-010	SB-01 No. 03	弥生土器	甕	底部片			6.4		内:暗茶褐色 外:黄灰褐色	内:ハケ目後ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	5	9	R-007	SB-01	弥生土器	甕	底部細片					内:淡黄灰褐色 外:灰淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	10	R-003	SB-01	弥生土器	甕か	底部片			(2.4)		淡黄灰褐色	ハケ目のちナデ
原ノ前遺跡	5	11	R-011	SB-01 No. 04	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片		(16.0)			内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	内:ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	5	12	R-009	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片		(14.0)			淡黄褐色	内:ハケ目(頸部横方向)/外: ハケ目、下半ヘラ状器具痕
原ノ前遺跡	5	13	R-002	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部片		(13.6)			内:明茶褐色 外:暗黄茶褐色	不明
原ノ前遺跡	5	14	R-075	SB-01 No. 01	石製品	砥石		石英斑岩	幅10.6, 長さ12, 厚さ4				
原ノ前遺跡	6	15	R-024	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(29.0)			淡黄褐色	内:ナデ/外:ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	16	R-028	SB-02	弥生土器	甕	口縁部細 片					内:黄褐色 外:茶褐色	ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	17	R-031	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(30.0)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	6	18	R-022	SB-02	弥生土器	甕か	口縁部片					黄褐色	横方向のハケ目
原ノ前遺跡	6	19	R-019	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			内:黄茶褐色 外:黄灰褐色	内:ハケ目/外:ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	6	20	R-016	SB-02	弥生土器	壺	口縁部片		(18.0)			内:黄褐色 外:明黄褐色	キザミ
原ノ前遺跡	6	21	R-014	SB-02	弥生土器	壺	口縁部～ 頸部片		(16.2)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	6	22	R-033	SB-02 No. 2	弥生土器	鉢			(13.3)		5.4	淡黄灰褐色	内:ナデ/外:ハケ目、下部に ケズリ
原ノ前遺跡	6	23	R-023	SB-02	弥生土器	鉢	口縁部片		(16.0)			暗黄灰褐色	内:ヘラ状器具による調整/ 外:ナデ
原ノ前遺跡	6	24	R-015	SB-02	弥生土器	鉢	口縁部片	片岩を含む	(16.0)				
原ノ前遺跡	6	25	R-017	SB-02	弥生土器	高坏	坏部口縁 部片		(21.4)			暗黄褐色	ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	26	R-032	SB-02	弥生土器	鉢			(14.0)			淡茶灰褐色	ヘラ状器具による調整
原ノ前遺跡	6	27	R-030	SB-02	弥生土器	鉢	胴部片					内:黒褐色 外:淡黄灰褐色	内:ハケ目、ヘラ状器具による 調整/外:ナデ
原ノ前遺跡	6	28	R-018	SB-02	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片		(10.0)			淡黄灰褐色	横方向ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	6	29	R-021	SB-02	弥生土器	器台	下部片			(9.6)		暗黄灰褐色	内:ヘラ状器具による調整/ 外:ナデ
原ノ前遺跡	6	30	R-013	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(6.0)		淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	31	R-026	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(5.8)		暗黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	32	R-025	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(5.6)		内:暗黄褐色 外:淡褐色	ナデ
原ノ前遺跡	6	33	R-027	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(10.0)		内:淡黄灰褐色 外:淡茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	34	R-020	SB-02	弥生土器	ミニチュ ア土器	1/3片		(6.0)			内:淡褐色 外:淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	7	35	R-074	SB-02	石製品	石包丁	3/5片	片岩	幅4.7, 厚さ0.7				
原ノ前遺跡	9	36	R-034	SB-04	弥生土器	甕	口縁部細 片					淡黄茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	9	37	R-036	SB-04 P-1	弥生土器	甕	口縁部片		(16.0)				口縁部にキザミ目
原ノ前遺跡	9	38	R-035	SB-04 P-4	弥生土器	鉢	口縁部片		(14.0)			黄茶褐色	
原ノ前遺跡	9	39	R-039	SB-04 P-1	弥生土器	鉢	底部片					淡黄灰褐色	内:ハケ目/外:底部ケズリ
原ノ前遺跡	9	40	R-038	SB-04 P-1	弥生土器	高坏	坏部上部 片		(32.0)				

第1表 原ノ前遺跡 出土遺物観察表 (1/3)

(単位: c m)

遺跡名	挿図 番号	遺物 番号	整理番号	遺構番号	種類	器種	残存	胎土_素地	寸法			色調	調整
									口径 (復元口径)	底径 (復元底径)	器高 (復元器高)		
原ノ前遺跡	9	41	R-072	SB-04 P-3	弥生土器	鉢	2/3片		(13.3)		(6.0)	淡黄褐色	
原ノ前遺跡	9	42	R-037	SB-04 P-1	弥生土器	壺			(11.6)			暗茶褐色	内:横方向のハケ目/外:ナデ
原ノ前遺跡	11	43	R-051	SB-05 東掘り込み	弥生土器	壺	口縁部片	砂粒を含む	(21.0)			淡黄灰褐色	ヨコナデ、ハケ目
原ノ前遺跡	11	44	R-206	SB-05 東掘り込み	弥生土器	壺か	胴部上半 片					内:黄褐色 外:黒色	内:ハケ目/外:タタキのちハ ケ目
原ノ前遺跡	11	45	R-205	SB-05 東掘り込み	弥生土器	甕か	底部片	片岩・石英を含む				内:黒灰褐色 外:暗黄灰褐色	内:ハケ目/外:ハケ目
原ノ前遺跡	11	46	R-201	SB-07	弥生土器	高坏	坏部片	片岩を含む	(36.0)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	11	47	R-053	SB-05 東掘り込み	弥生土器	鉢	口縁部細 片					内:淡黄褐色 外:黄茶褐色	内:ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	11	48	R-204	SB-05 東掘り込み	弥生土器	鉢	坏部片		(17.0)			内:淡茶褐色 外:明茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	11	49	R-203	SB-05 東掘り込み	弥生土器	鉢	1/5片		(16.0)			内:淡黄褐色 外:黄灰褐色	内:ハケ目/外:ハケ目
原ノ前遺跡	11	50	R-202	SB-05	弥生土器	壺	口縁部片		(10.0)			内:黄灰褐色 外:茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	11	51	R-052	SB-05 東掘り込み	弥生土器	壺	細片					淡黄褐色	ナデ、ヨコナデ、篋状工具に よる調整
原ノ前遺跡	11	52	R-218	SB-05 東掘り込み	弥生土器	器台	底部片			(14.2)		内:黄灰茶褐色 外:黄茶褐色	内:ハケ目/外:ハケ目
原ノ前遺跡	12	53	R-211	SB-06	弥生土器	壺	口縁部片		(18.4)			内:暗茶褐色 外:茶褐色	
原ノ前遺跡	12	54	R-040	SB-06	弥生土器	壺	胴部上半 ~頭部		(23.2)			内:淡褐色 外:暗黄灰褐色	内:ハケ目/外:頭部にキザミ
原ノ前遺跡	12	55	R-213	SB-06 No. 8	弥生土器	壺	頭部片		(21.6)			黒灰褐色	ハケ目のちナデ
原ノ前遺跡	12	56	R-216	SB-06	弥生土器	壺	頭部片		(20.0)			内:黄灰褐色 外:淡黄褐色	内:ハケ目/外:端部にキザミ
原ノ前遺跡	12	57	R-215	SB-06	弥生土器	甕	肩部~口 縁部片					茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	58	R-214	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(18.2)			黄褐色	
原ノ前遺跡	12	59	R-212	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(18.0)			明茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	60	R-217	SB-06 No. 7	弥生土器	壺	口縁部片		(20.6)			淡黄褐色	不明
原ノ前遺跡	12	61	R-210	SB-06	弥生土器	壺	口縁部片					暗黄灰褐色	内:ハケ目/外:端部にキザミ
原ノ前遺跡	12	62	R-209	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(26.0)			内:黄茶褐色 外:淡黄灰褐色	内:ナデ/外:横方向のハケ目
原ノ前遺跡	12	63	R-208	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(15.0)			内:明茶色 外:黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	12	64	R-207	SB-06	弥生土器	鉢	1/5片		(12.0)			内:黒黄褐色 外:黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	65	R-062	SB-06 P-1	縄文土器	不明	口縁部細 片					暗褐色	
原ノ前遺跡	12	66	R-065	SB-06	縄文土器	不明	細片					暗黄褐色	
原ノ前遺跡	12	67	R-064	SB-06	縄文土器	不明	細片					内:暗黄褐色 外:暗茶褐色	
原ノ前遺跡	12	68	R-063	SB-06 P-1	縄文土器	不明	細片					茶褐色	
原ノ前遺跡	13	69	R-076	SB-06	石製品	石鐮	完形	黒曜石	幅1.4、長さ2.4、厚さ5.0				
原ノ前遺跡	14	70	R-221	SB-07 No. 1	弥生土器	壺	口縁部片						
原ノ前遺跡	14	71	R-219	SB-07	弥生土器	壺か	底部片			(6.6)		内:黒灰褐色 外:黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	72	R-068	SB-07	縄文土器	不明	口縁部細 片					暗茶褐色	
原ノ前遺跡	14	73	R-224	SB-07 中央掘り込み	弥生土器	壺	口縁部片					黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	74	R-223	SB-07 中央掘り込み	弥生土器	壺	口縁部小 片	片岩・石英を含む				内:黄褐色 外:黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	75	R-220	SB-07 No. 1	弥生土器	高坏	坏部下部 ~脚部片					内:黄褐色 外:黄茶褐色	
原ノ前遺跡	17	76	R-049	SB-09 No. 06	弥生土器	甕	口縁部~ 胴部片		(17.0)			内:暗黄灰褐色 外:淡黄灰褐色	
原ノ前遺跡	17	77	R-050	SB-09 No. 04	弥生土器	甕	口縁部~ 胴部片		(18.2)			内:暗茶灰褐色 外:茶褐色	ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	17	78	R-059	SB-09 No. 12	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			淡黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	79	R-055	SB-09 P-6	弥生土器	甕				(12.0)		黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	80	R-044	SB-09 P-11	弥生土器	甕	口縁部片					内:暗黄褐色 外:淡褐色	内:ハケ目/外:ナデ

第1表 原ノ前遺跡 出土遺物観察表 (2/3)

(単位：c m)													
遺跡名	挿図 番号	遺物 番号	整理番号	遺構番号	種類	器種	残存	胎土_素地	寸法			色調	調整
									口径 (復元口径)	底径 (復元底径)	器高 (復元器高)		
原ノ前遺跡	17	81	R-045	SB-09 P-11	弥生土器	高坏	底部片					内:暗黄灰褐色 外:淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	82	R-048	SB-09 No. 09	弥生土器	高坏	脚部下部 片			(15. 6)		内:黄茶褐色 外:淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	83	R-047	SB-09 P-5	弥生土器	甕	胴部上半		(16. 0)				
原ノ前遺跡	17	84	R-043	SB-09 No. 01	弥生土器	甕	底部片			(15. 8)		淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	85	R-041	SB-09 No. 07	弥生土器	甕	底部片			(8. 8)		内:黄茶褐色 外:淡黄灰褐色	内:底部ヘラ状器具による調整/外:底部付近ミガキ
原ノ前遺跡	17	86	R-054	SB-09 P-6	弥生土器	甕	底部片			(3. 8)		内:淡黄褐色 外:暗黄灰褐色	内:ハケ目/外:底部付近ケズリ
原ノ前遺跡	17	87	R-042	SB-09 No. 01	弥生土器	甕	底部片			(7. 0)		淡黄灰色	
原ノ前遺跡	17	88	R-057	SB-09 P-18	弥生土器	鉢	脚部端			(10. 0)		淡黄褐色	
原ノ前遺跡	17	89	R-058	SB-09 SK-2	弥生土器	鉢	口縁部片		(14. 9)			淡黄褐色	内:ハケ目/外:ナデ
原ノ前遺跡	17	90	R-056	SB-09 P-20	弥生土器	鉢	口縁部片		(12. 0)			内:茶褐色 外:黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	91	R-060	SB-09 No. 12	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片		(13. 2)			赤褐色	ナデ、底部ケズリ
原ノ前遺跡	17	92	R-046	SB-09 No. 11	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片			(14. 7)	(9. 6)	内:暗黄灰褐色 外:黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	93	R-225	SB-09 (屋内土坑)	弥生土器	不明	脚部片			(14. 8)		黄褐色	
原ノ前遺跡	19	94	R-226	SB-09 (屋内土坑)	弥生土器	鉢	口縁部片		(10. 0)			内:黄茶褐色 外:黄灰褐色	内:ハケ目/外:不明
原ノ前遺跡	19	95	R-227	SB-09 (屋内土坑)	弥生土器	脚部	脚部片			(10. 0)		暗黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	24	96	R-083	SD-01	弥生土器	甕か	胴部片					内:黄黒灰褐色 外:淡黄灰褐色	内:ハケ目/外:突帯ヨコナデ
原ノ前遺跡	24	97	R-066	P-07	縄文土器	不明	細片					暗黄黒褐色	不明
原ノ前遺跡	24	98	R-069	P-08	縄文土器	不明	細片					黒褐色	不明
原ノ前遺跡	27	99	R-122	SX-01	弥生土器	甕	口縁部片		(26. 8)			淡黄灰褐色	内:ハケ目のちナデ/外:ヨコナデ、ハケ目
原ノ前遺跡	27	100	R-238	SX-02 北西	弥生土器	甕	口縁部片		(21. 6)			内:暗黄灰褐色 外:黒灰色	内:ハケ目後ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	101	R-128	SX-02	弥生土器	壺	口縁部片		(20. 0)			黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	102	R-133	SX-02 北西	弥生土器	壺	細片					淡黄褐色土	内:ハケ目/外:タタキ後ハケ目
原ノ前遺跡	27	103	R-234	SX-02 南東	弥生土器	甕	口縁部片					黄灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	104	R-134	SX-02 南西	弥生土器	甕	口縁部片					暗黄褐色	不明
原ノ前遺跡	27	105	R-129	SX-02 南東	弥生土器	壺	口縁部片		(15. 6)			内:淡黄褐色 外:淡灰色	内:ハケ目後ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	106	R-131	SX-02 北西	弥生土器	壺	口縁部片		(16. 0)			淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	107	R-127	SX-02	弥生土器	壺	口縁部～ 胴部片	片岩、石英を含む	(17. 0)			淡黄褐色	内:ハケ目/外:ハケのちナデ
原ノ前遺跡	27	108	R-124	SX-02 北西	弥生土器	鉢	口縁部～ 胴部片		(24. 8)			内:黒灰色 外:淡黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	109	R-239	SX-02 北西	弥生土器	鉢	細片					内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	内:横方向のハケ目/外:タタキ
原ノ前遺跡	27	110	R-237	SX-02 北西	弥生土器	鉢	口縁部片		(20. 0)			淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	111	R-235	SX-02 北西	弥生土器	甕	底部片			(8. 0)		黄茶褐色	内:不明/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	112	R-125	SX-02 北西	弥生土器	壺か	底部片			4. 2		内:黄褐色 外:淡黄黒褐色	内:ハケ目/外:ナデ
原ノ前遺跡	27	113	R-126	SX-02	黒色土器	椀	底部片			7. 4		黒色	
原ノ前遺跡	27	114	R-236	SX-02 北東	弥生土器	鉢	口縁部片		(12. 0)			黄褐色	不明
原ノ前遺跡	27	115	R-130	SX-02	弥生土器	鉢	口縁部片		(12. 0)			内:淡褐色 外:黄黒灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	116	R-123	SX-02	弥生土器	器台	上部片	片岩細砂粒を含む	(13. 0)				ナデ

第 1 表 原ノ前遺跡 出土遺物観察表 (3/3)

遺跡名	挿図番号	遺物番号	実測番号	出土遺構	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
													外面	内面	
松本遺跡	48	1	R9	SB01	弥生	甕 (底部)		9.7		3～8mm大の小石と黒色粒子と砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	2	R7	SB01	弥生	鉢 (口縁部片)	13.8			2～3mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
松本遺跡	48	3	R8	SB01	弥生	鉢 (口縁部片)	17.8			2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデハケ目	
松本遺跡	48	4	R10	SB02	弥生	壺 (底部)		5.4		3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明茶褐色	普通	ハケ目後ナデ	ヨコナデ	一部黒斑あり
松本遺跡	48	5	R13	SB03	弥生	壺 (口縁部片)	22.0			2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗灰色	普通	ヨコナデ後ハケ目	ヨコナデ	袋状口縁
松本遺跡	48	6	R14	SB03	弥生	甕 (口縁部片)	28.0			砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	48	7	R05	SB03	弥生	甕 (ほぼ完形)	12.0		19.6	2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	ハケ目	一部黒斑あり
松本遺跡	48	8	R12	SB03	弥生	高坏	31.4			2～4mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	9	R17	SB03	弥生	鉢 (ほぼ完形)	13.0	4.9	6.7	2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
松本遺跡	48	10	R16	SB03	弥生	壺 (2/3片)	4.2	4.5	10.0	2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	48	11	R15	SB03	弥生	鉢 (口縁部片)	8.0			2～3mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	不明	ナデ	
松本遺跡	48	12	R11	SB03	弥生	器台 (脚部)		11.8		2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗黒褐色	普通	タタキ・指頭痕	不明	
松本遺跡	48	13	R18	SB04	弥生	甕 (口縁部片)	30.0			3mm～1cm大の小石と砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	不明	口縁部刻み目・頸部に三角突帯
松本遺跡	48	14	R20	SB04	弥生	甕 (底部片)		7.5		2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄黒茶褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	15	R19	SB04	弥生	鉢 (口縁部片)	14.0			砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ	
松本遺跡	48	16	R21	SB04	弥生	器台				2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
松本遺跡	48	17	R4	SB11	土師器	壺				2mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	ハケ目・ヘラ削り	ハケ目	底部に黒斑あり
松本遺跡	48	18	R1	SB11	土師器	埴 (完形)	9.1		4.8	2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄黒灰色	普通	ヘラ削り	ナデ	黒斑あり
松本遺跡	49	19	R24	SB13	土師器	壺 (口縁部片)	22.0			2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	一部波状紋あり	不明	
松本遺跡	49	20	R22	SB14	土師器	甕 (口縁部片)	18.0			砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	49	21	R06	SX01	弥生	壺 (ほぼ完形)	13.9	6.8	21.1	赤色粒子と2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	胴部に黒斑、外面に一部赤色顔料あり
松本遺跡	49	22	R02	SX01	弥生	器台 (脚部1/3)	14.0			2～4mm大の小石と砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデヘラ削りハケ目	
松本遺跡	49	23	R23	P26	弥生	甕 (口縁部・胴部)	26.0			砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	縦方向のハケ目	口縁部：横方向のハケ目・ハケ目	口縁部に刻み目
松本遺跡	49	24	R03	P61	弥生	器台 (1/2)	12.5	15.0	17.2	2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄暗茶灰褐色	普通	縦方向のハケ目	圧痕、横方向のハケ目	

表2 松本遺跡 SB・SX・ピット出土土器観察表

遺跡名	挿図番号	遺物番号	実測番号	出土遺構	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
松本遺跡	50	1	R06	SB03	石包丁	片岩	4.6	11.1	0.8	62.0	
松本遺跡	50	2	R05	SB04	石包丁	片岩	5.8	11.6	1.0	90.6	
松本遺跡	50	3	R03	SB04	石包丁	片岩	6.1	9.6	0.9	78.7	
松本遺跡	50	4	R04	SB04	石包丁	片岩	4.8	8.3	0.6	35.2	
松本遺跡	50	5	R02	SB04	石包丁	片岩	4.8	5.5	0.7	30.2	未製品
松本遺跡	51	6	R07	SB04	すり石	花崗岩	12.1	12.5	5.4	1030.0	
松本遺跡	51	7	R08	SB04	すり石	花崗岩	8.0	7.6	4.6	390.0	
松本遺跡	51	8	R01	SB04	砥石	石英斑岩	14.4	13.7	8.0	2005.0	

表3 松本遺跡 SB出土石製品観察表

版 圖



原ノ前遺跡 調査区 北から

(1)

調査前

調査区北側から



(2)

調査前

調査区南東から



(3)

1・2・3号竪穴

住居 南から



図版 3

(1)

4号竪穴住居
西から



(2)

5・6・7号竪穴
住居
南から



(3)

5号竪穴住居
遺物出土状況





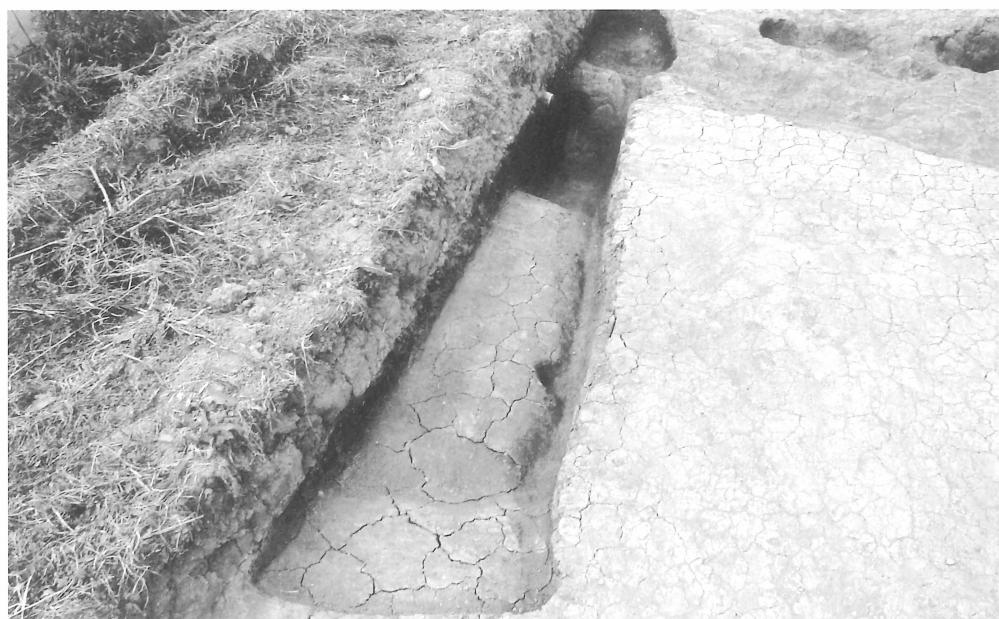
(1)

5号竪穴住居
遺物出土状況



(2)

5号竪穴住居
北から



(3)

7号竪穴住居
南から

図版 5

(1)

8号竪穴住居
南から



(2)

9号竪穴住居
南東から



(3)

9号竪穴住居ベッ
ド状遺構

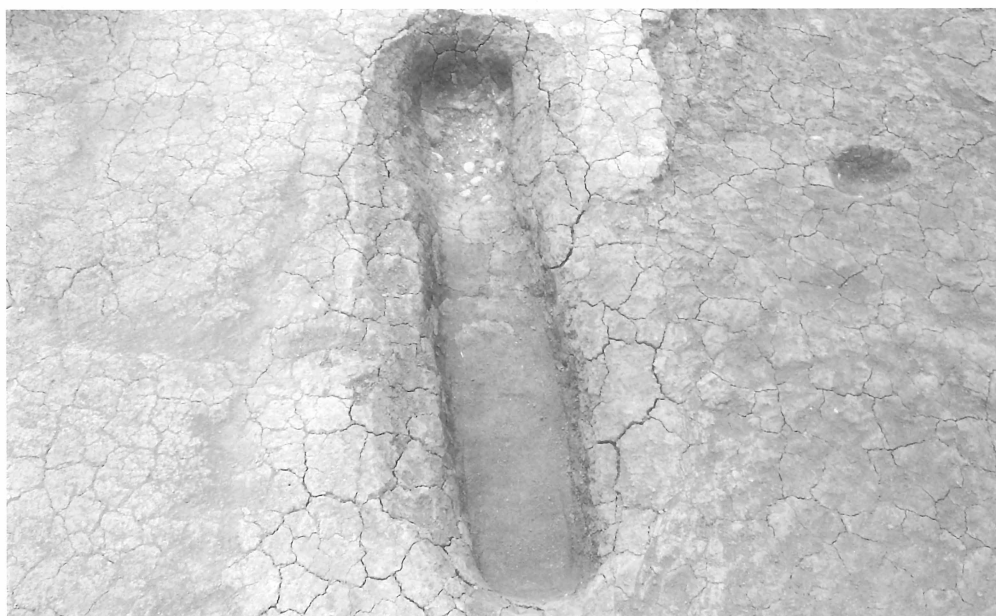




(1)

1号溝状遺構

西から



(2)

1号不明遺構



(3)

2号不明遺構

北から



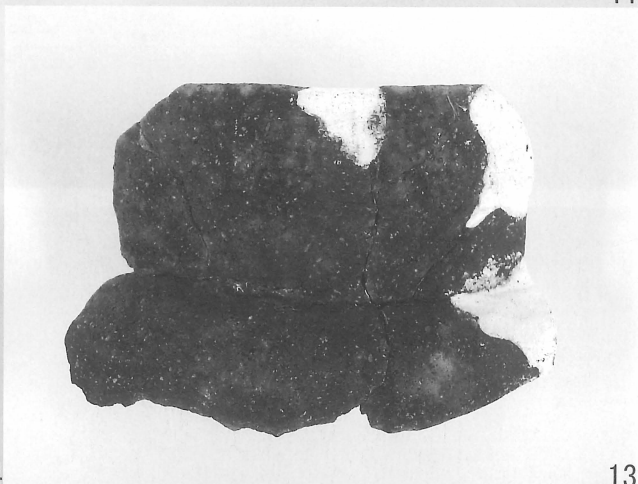
1



11



4



13



5



14



8



21



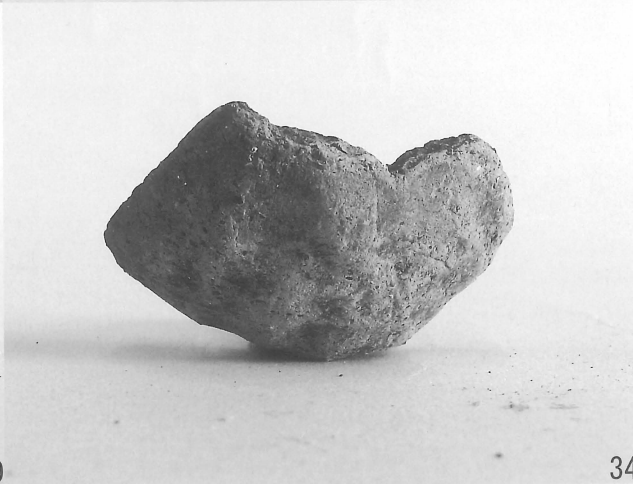
22



33



29



34



30



35



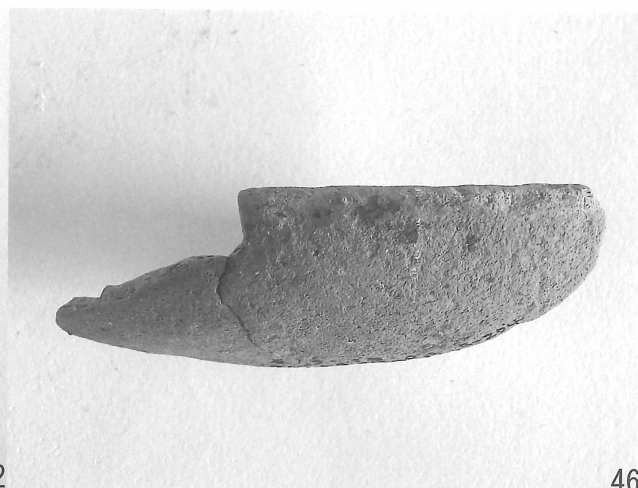
31



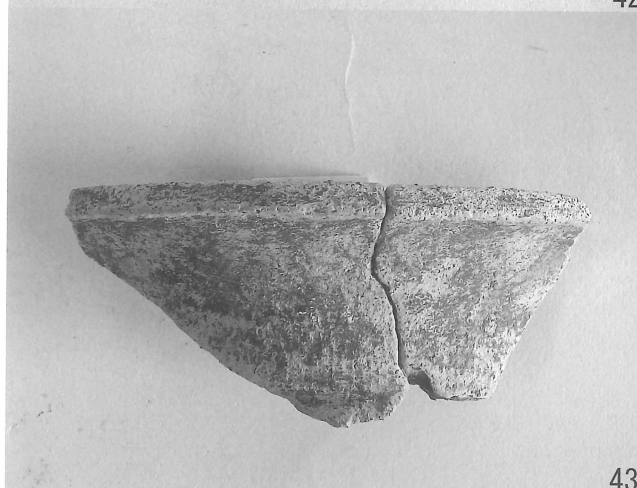
38



42



46



43



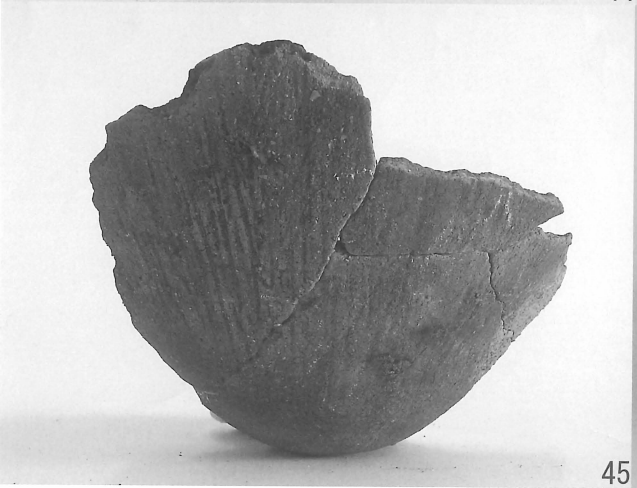
50



44



52



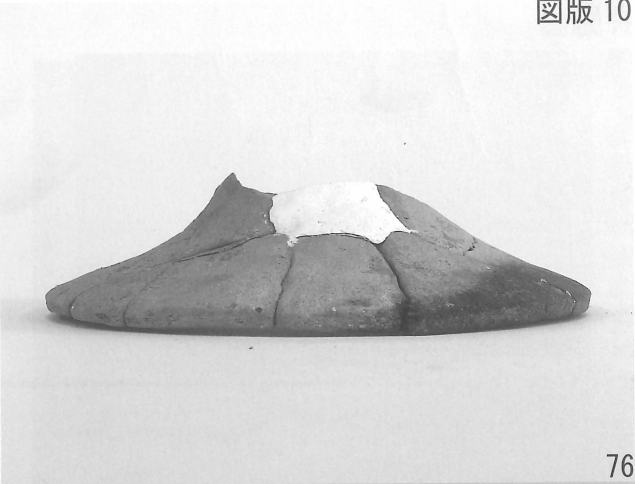
45



54



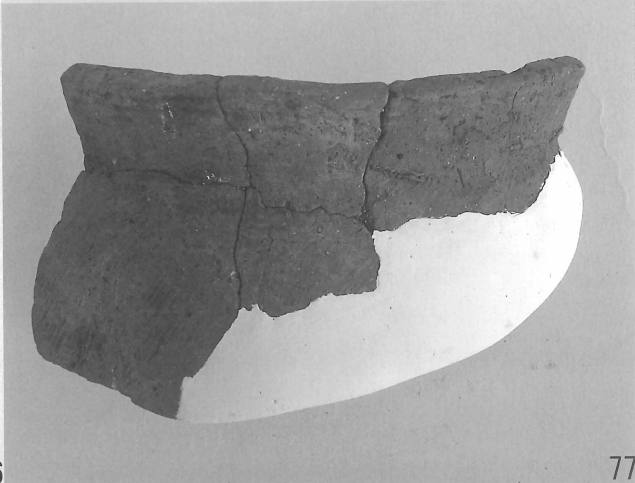
55



76



56



77



61



79



62



86



(1) 松本遺跡 全景



(3) 松本遺跡 3号竖穴住居, 1号不明遺構



(2) 松本遺跡 1, 2号竖穴住居



(4) 松本遺跡 4号竖穴住居



(1) 松本遺跡 5号掘立柱建物



(3) 松本遺跡 7号掘立柱建物



(2) 松本遺跡 6号掘立柱建物



(4) 松本遺跡 8号(手前), 16号掘立柱建物



(1) 松本遺跡 9, 10号掘立柱建物



(3) 松本遺跡 10, 11号掘立柱建物



(2) 松本遺跡 10～12号掘立柱建物(南東より)



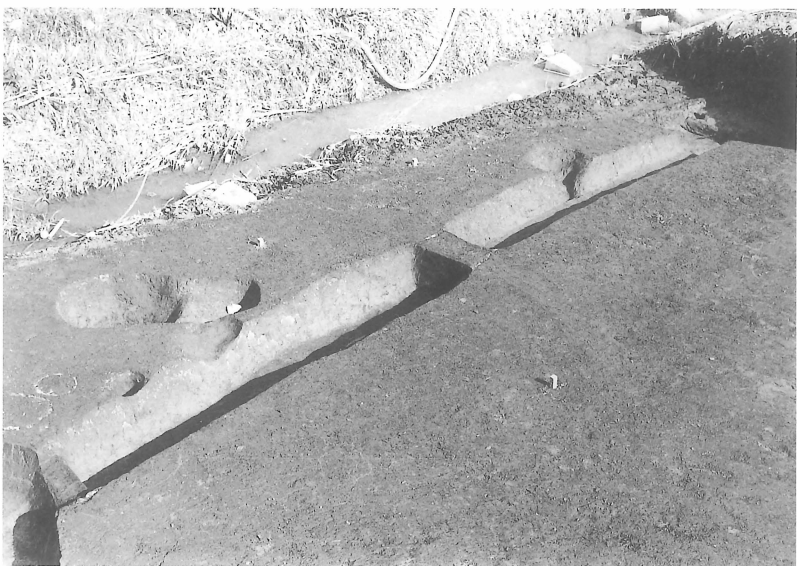
(4) 松本遺跡 15号掘立柱建物



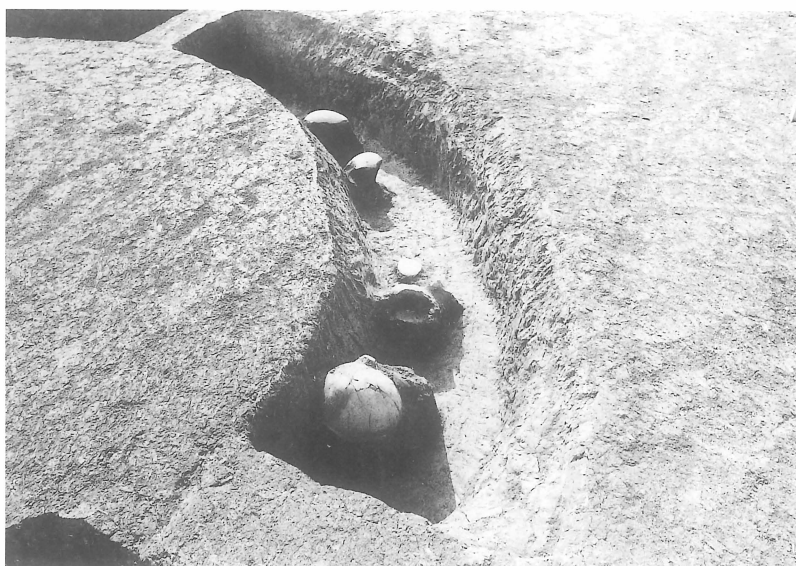
(1) 松本遺跡 17号掘立柱建物



(3) 松本遺跡 1号不明遺構



(2) 松本遺跡 1号溝状遺構 (南西より)



(4) 松本遺跡 1号不明遺構 遺物出土状況



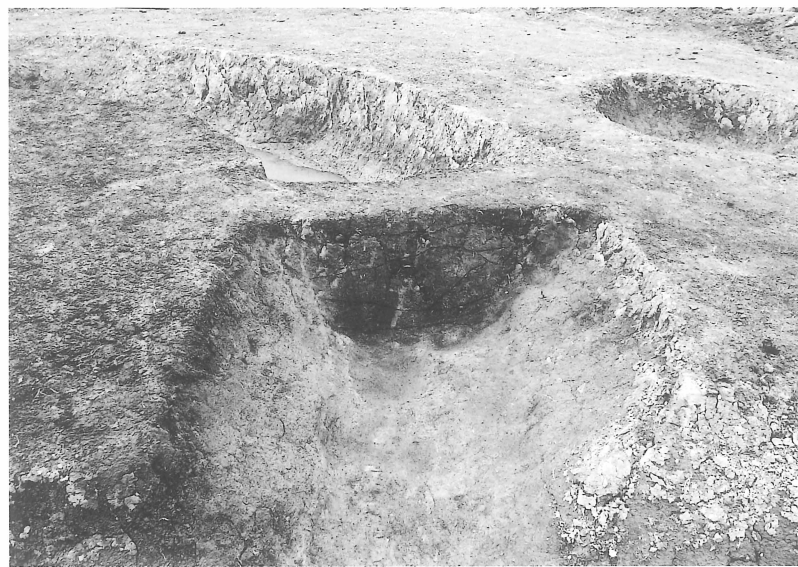
(1) 松本遺跡 1号溝状遺構 土層



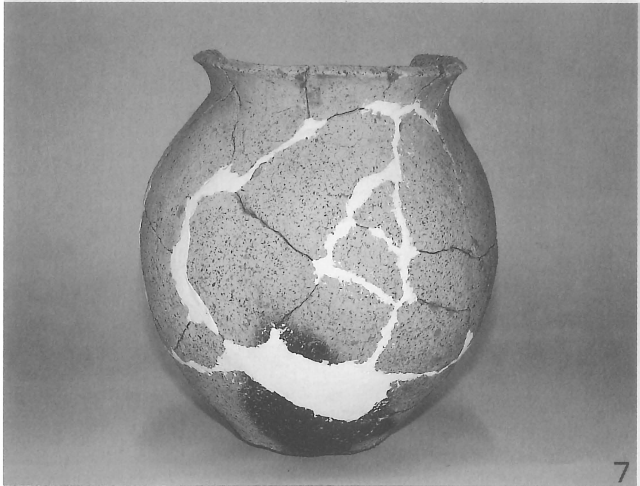
(3) 松本遺跡 1号不明遺構 土層B-B'



(2) 松本遺跡 1号不明遺構 土層A-A'



(4) 松本遺跡 1号不明遺構 土層C-C'





9



10



11



12



13



14



15



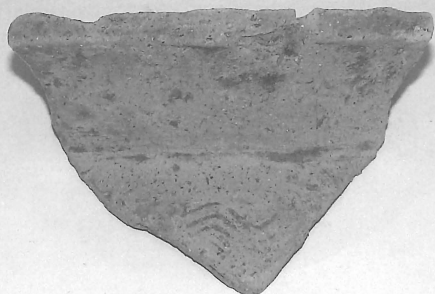
16



17



18



19



20



21



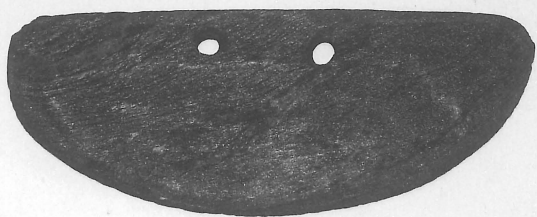
22



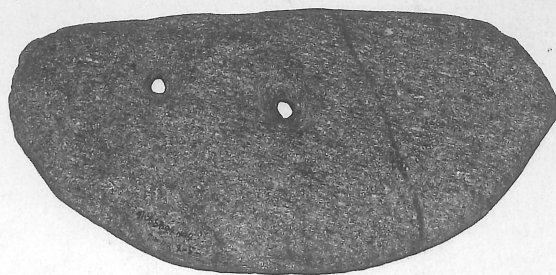
23



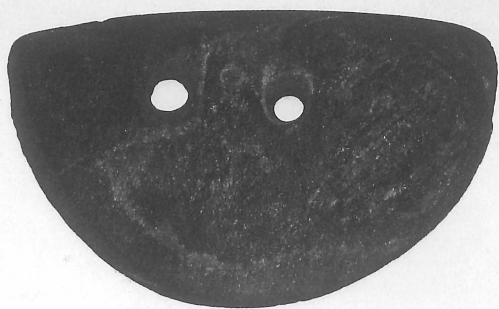
24



1



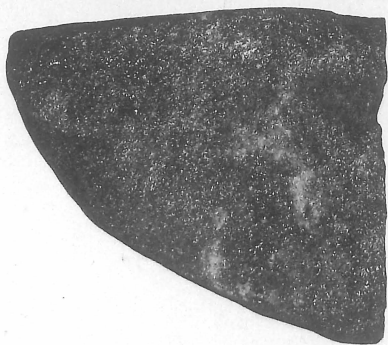
2



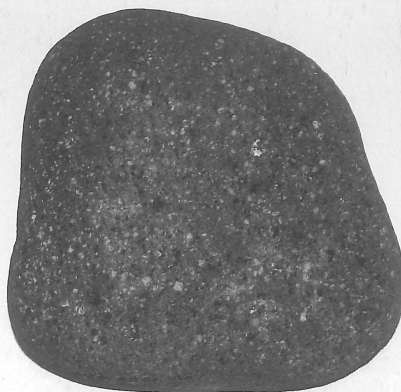
3



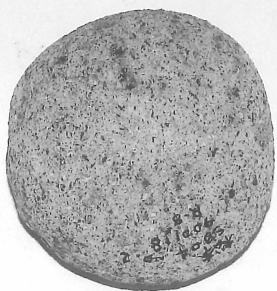
4



5



6



7



8

報 告 書 抄 録

ふ り が な								
書 名		八女市内遺跡群 8						
副 書 名		福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		八女市文化財調査報告書						
シ リ ー ズ 番 号		第112集						
編 著 者 名		中川 寿賀子・永田 寧						
編 集 機 関		八女市教育委員会						
所 在 地		8 3 4－8 5 8 5 福岡県八女市本町 6 4 7 TEL 0 9 4 3－2 3－1 9 8 2						
発 行 年 月 日		西暦 2016年3月31日						
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所在地	コ ー ド		。 北緯 。 ' " "	。 東経 。 ' " "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平成元年度調査 はら まえいせき 原ノ前遺跡	ふくおかけん 福岡県 や め し しんじょう 八女市新庄	40210	407017-08	33° 11' 37"	130° 31' 50"	1990. 04. 11 ～1990. 05. 29	500m ²	圃場整備
まつもと いせき 松本遺跡	ふくおかけん 福岡県 や め し く に たけ 八女市国武		407001-05	33° 12' 8"	130° 32' 32"	1989. 12. 01 ～1990. 01. 12	640m ²	圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
はら まえいせき 原ノ前遺跡	集落	弥生・古墳	・ 竪穴住居 ・ 溝状遺構 ・ 土坑		弥生土器・土師器・石製品			
まつもと いせき 松本遺跡	集落	弥生・古墳	・ 竪穴住居 ・ 掘立柱建物 ・ 不明遺構 ・ 溝状遺構		弥生土器・土師器・石製品			

八女市内遺跡群 8

八女市文化財調査報告書 第112集

平成28年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1